

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー (DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎:特に関係する ○:関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008022	比較文化入門	2単位	1年	赤松美和子	「比較文化入門」は、比較文化学部の一年生のみならず、大学で比較文化を学ぶ方法を身に付けるための授業です。「かわいい」は、1990年代以降グローバル化とともにアジアや欧米諸国に広まった日本発の美学の一つです。本授業は、四方田犬彦『かわいい論』(ちくま新書、799円)を教材として、みなさんが何気なく使っている「かわいい」という言葉を、通時的に共時的に考察することを通して、比較文化とは何かを学び、自分が感じ考えたことを伝えるための知識と技術と自信を身につけることを目的としています。授業は、教材について、報告者の口頭発表の後、全員でディスカッションを行います。報告者は、教材の担当部分の概要をまとめ、分らなかつた箇所について用語解説・関連資料を添付したレジュメを作成してください。報告者以外にも全員に発言を求めますので各自教材を精読した上で授業に臨んでください。精読、レジュメの作成、口頭発表、質疑応答を通して、大学生として学ぶための基礎力を養いましょう。また、本授業を通して、資料の集め方、映画の分析の方法、論文の方法、発表の方法、レジュメの作り方、ディスカッションの方法などを養い、これから始まる大学生活の基礎を固めましょう。	◎			○
150008022	比較文化入門	2単位	1年	石川 照子	「アジア学入門」アジアと一口に言っても、そこには多様な政治、経済、社会、文化、言語、人種、民族、宗教が存在する。そしてほとぼしる人々のエネルギーと将来の可能性が注目される一方、貧困と紛争等の問題は未だ解決されていない。そんなアジアという地域をどうとらえたらよいのだろうか。また、日本はアジアの中でどう生きてゆくべきなのだろうか。授業では教科書に沿って、こうした多様な地域アジアの歴史と現状を学んでゆく中で、これらの問いに対する答えの手がかりを探ってゆきたい。	◎	○		
150008022	比較文化入門	2単位	1年	上野 未央	私たちが、他の国・地域の文化を学ぶ意味はどこにあるのでしょうか。また、現代の私たちが、歴史を学ぶことには、どのような意味があるのでしょうか。このような問題意識を出発点に、この授業では、ヨーロッパ史の入門書を読んでいきます。はっきりとした「答え」が出るような問題ではないかもしれませんが、授業を通して、受講生それぞれが、「文化を学ぶということ」について自分なりの考えを持てるようになることが、この授業のねらいです。テキストとする「自分のなかに歴史をよむ」は、歴史家である著者が、どのようにしてヨーロッパの文化に関心をもち、その歴史を学ぶかとはどういったことになったのか書かれています。著者の子ども時代や留学の思い出についても書かれています。この本を読みながら、他の地域の文化を学ぶ意味や、それに伴う問題について考察します。日本とヨーロッパとの比較の視点も取り入れます。また、この授業では、調べながら読むこと、発表すること、そして授業中の質疑応答(ディスカッション)を通して、調べる力・伝える力を養うことを目指します。報告のために、個別に面談を行い、メールも使って指導を行います。	◎			○
150008022	比較文化入門	2単位	1年	久保 忠行	ねらい 比較文化の第一歩は異文化について知ることである。この授業では、私たちが日常的に触れるメディアを通して異文化がどのように伝えられているのかを「一歩引いて」みることをとおして、異文化理解と自文化理解を試みる。近年、日本文化や海外の暮らしを紹介するテレビ番組が増加しているが、そうした文化の比較で見えなくなるものは何か? ここでは、文化人類学の枠組みをもとにして異文化の「理解の仕方」を学ぶ。また本セミナーでは、大学で必要とされる学習技術や、これを支える学習態度を学ぶことを目的とする。とくに学習技術のうち、読む力、聴く力、調べる力、考える力、発表する力を向上させることを目指す。到達目標1)文献や資料に書かれた内容を適切に要約し、レジュメにまとめて報告することができる。2)メディアをとおして提示される「異文化」を批判的に検討することができる。	◎		○	
150008022	比較文化入門	2単位	1年	米塚 真治	おもにアメリカ文化コースで文化・芸術を専攻することを考えている人を念頭に置いた授業です。テキストの著者は、3分程度の短いテレビ番組を素材とした優れた語学教材を、これまでに数多く生み出してきました。同じVOA(Voice of America、アメリカ国営放送)のニュースを使った前著American Culture(2006)と比べて、本作American Vision(2015)の特徴は、1.歴史や伝統よりも「現在」やポピュラーカルチャーをより重視していること2.番組の内容が、ナレーションよりもインタビュー中心、テーマの概説よりもエピソード中心になっていること3.すべての映像・音声はYouTubeないし出版社サイトで視聴可能で、予習復習が教室外で納得ゆくまでできることにあるといえます。専門科目への導入と、リスニングを中心とした語学の学習とを兼ねたテキストであることは変わりません。アメリカ文化の「現在」の断面を、具体的なエピソードと関係者の生の声を通して知ることが、内容面での到達目標となります。語学の面では、現在TOEIC400点~500点の学生向けに編まれたテキストですので、500点~600点が到達目標となります。	◎	○		
150008022	比較文化入門	2単位	1年	佐藤 実	この授業ではわたしたちが普段つかっている漢字二の熟語の意味について「現在と過去」「日本と中国」のふたつの側面から比較・考察し、いまのわたしたちが当然だかんがえていること、みなしていることが、実はかなり特異であることを発見し、その内容を文章にして相手につたえることを目標にします。まず「現在と過去」の比較とは、国語辞典と漢和辞典との記述内容の比較です。漢和辞典は実は現代日本語としての意味ではなく、おもに古典での意味が掲載されています。また「日本と中国」の比較とは、国語辞典と中国語辞典(中辞典)との比較です。もとも漢字は中国から輸入されたメディアですが、おなじ漢字をつかっているいまの日本語と中国語では意味がちがっています(おなじものもあります)。以上、ふたつの側面からの比較をしてえられた知見を口頭発表し、それをもとに800字のエッセイにまとめます。なおエッセイについては全員で検討して、何度か推敲してもらったうえで完成させ、最終的には漢語にかなする「エッセイ集」を作成します。	◎	○		
150008022	比較文化入門	2単位	1年	高田 馨里	文化を比較の視点から学びながら、調査・研究とレジュメ作成・発表の方法を習得することを本授業の目的とする。自分で面白いと思うビックや分野を見出し、さまざまな資料を調べ、実際にそれをまとめるという大学での「研究」の基礎を身につけてほしい。この比較文化入門では、おもにアメリカ合衆国、カナダ、オーストラリアなど太平洋地域の英語圏の国々の様々な文化に関する共通資料を用いて、授業毎に4~5名の受講生に発表してもらい、ゼミ形式で質疑応答や議論を行う。発表に際しては、図書館での所蔵図書の検索方法や文献リストの作成方法なども合わせて学ぶ。この比較文化入門で、研究方法の基礎をしっかりと身につけよう。	◎			○

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい/到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008022	比較文化入門	2単位	1年	武田 千夏	この入門ゼミでは、ヨーロッパ研究の基礎としてのヨーロッパ史を学びます。今後4年の間に、皆さん方はヨーロッパの芸術、文化、文学、政治、社会などの多様な分野について勉強していきますが、それらすべての根底にあるのが歴史です。異なる地域、国を比較するか、もしくは同じ国の異なる時期について比較しながら、持続性、断続性などのパターンを読んでいきます。特定のテーマとしては、国境と民族、観光、都市、産業と移民、戦争、記憶、社会運動(労働者、ジェンダー)などを取り上げる予定です。テーマ別のグループで作業することによって、ヨーロッパ史について立体的な理解を促します。	◎	○		
150008022	比較文化入門	2単位	1年	貫井 一美	比較文化というのは異国や異文化について学ぶことばかりではなく、同じ文化圏や国においても時代によってあるいは属する社会をまなぶことでもあります。この授業で、調べ方、発表の仕方、レポートの書き方などを含めて大学における基本的な学習方法を身につけながら、視覚芸術(首主としてヨーロッパ絵画)を通して異なる文化を比較することがどのようなことであるのかを考える機会にしたいと考えます。自分とは異なる文化を知ること、自分の文化を知ることでもあります。客観的な視一つの事象を比較検討し自らの意見を持てるようになるための基礎能力をつけることを目的にします。授業は、第4回から、テーマを選んで担当者に発表をしてもらい、それについて意見を交換するという形で進めていきます。	◎			○
150008022	比較文化入門	2単位	1年	JOHNSON,G.S.	この科目では資料と映像を分析して、社会の近代化と変化の形を考察する目的です。テーマは「児童」です。学生個人が理論を把握し、過去の事実を分析する能力、プレゼンテーション技術と文章の表現力を高めることが重要な目標です。近代化のプロセスと、17-18世紀ヨーロッパの啓蒙運動以降の児童観を再考します。そこで、現代文学と映画の中の児童像を調べて産業化、戦争、テクノロジー、ポストモダン社会という枠を通して、社会は児童をどのように位置づけているかを分析します。	◎	○		
150008020	比較文化論	2単位	2・3年	上垣外憲一	比較文化とは、世界の文化を各地域間の文化の異同を比較考察して、それぞれの文化の特性を明らかにする学問です。平たく言えば、世界文化そのものですが、どこに軸をおいて比較するかによって、世界文化の見え方は様々に変わります。日本においては、日本を中心軸に据えて、それと世界各地の文化圏との交流史を研究するという行き方が最も一般的です。この授業では、日本を中心においた各文化圏との交流史は重んじます。もう少し世界大の、インドと中国、欧米と中国文化圏の比較といったよりグローバルな視点からの比較も、取り入れます。また、学会が不備であるために研究も貧弱ですが、この点については、担当教員(上垣外)の独自の考えで、「偉大な比較文化学者たち」という題目でお話します。また簡単ですが、比較文化の方法論についても、最後に授業題目として取り上げます。	○	◎		
150008020	比較文化論	2単位	2・3年	久保 忠行	授業のねらい 本講義では人類学の視点から、人間社会の普遍性と多様性について学ぶ。人類学の学説史だけではなく、近年の人類学に影響をあたえてきた隣接分野の諸理論も紹介しながら、現代的な問題も射程に入れて講義をする。到達目標 人類学の諸概念と用語を理解し、説明することができる。また身の回りにある出来事や世の中で起こっている出来事を、人類学的な視点からとらえ説明することができる。		◎	○	
150008020	比較文化論	2単位	2・3年	貫井 一美	イベリア半島(主としてスペイン)を軸に、東西文化を考える。その相違点や共通点、影響関係を具体的にみていくことで、異文化が歴史の中でどのように融合していったか、または排除されていったのかを考えていく。今年度は南蛮文化(スペインと日本)、陶器(スペイン、ヨーロッパとイスラム)を取り上げる。	○	◎		
150008001	日本の歴史と風土	2単位	1・2年	上垣外憲一	俳句の発展とともに、「歳時記」が作られるようになり、季節を表す言葉のニュアンスを細かに味わうことが、求められるようになった。「歳時記」に現れる季節について分析を行い、実際に使われている作品から、その季節がどのように季節感を伝えていくかを考える。以上のような方法を通じて「歳時記」と日本人の季節感の関係を考える。		○	◎	
150008001	日本の歴史と風土	2単位	1・2年	古庄 浩明	まず、風土とはなにかを考察します。その上で、日本の環境から形成された風土と歴史を概観していきます。特に、日本人の特質が形成された原始・古代について、環境との関係で考察することによって、日本の風土と歴史・文化の基礎を学習することを目的としています。		○	◎	
150008002	日本の社会と民俗	2単位	1・2年	鈴木 孝子	日本とはどういう国なのであろうか。日本の文化的な本質はどこにあるのであろうか。近代化以前から、日本は外来文明と思想を取り入れつつ、独自の文化を形成してきた。文化人たちは異文化を受容する努力を重ねると同時に、日本の独自性とは何かを常に問われ続けてきた。言い換えれば、各時代ごとに最先端の文化文明と、伝統文化をどのように両立させるべきかを模索し続けてきたのである。この問題提起を重ねる過程から、今日の日本社会が形成されたといえる。この授業では、日本の神観念の展開と歴史観、政治論の推移を中心に現代社会の成立背景を考え直してゆくこととしたい。日本史の概略を異文化受容と神観念の形成と歴史観の変化から一歩踏み込んで考え、理解する機会となれば幸いである。日本は国としてどうあるべきか、先人たちが議論し続けてきた。過去の遺産を振り返り、現在を見直す契機となれば幸いである。	○		◎	

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい/到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎:特に関係する ○:関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008003	日本の思想と宗教	2単位	1・2年	城殿 智行	仮に、現在の世界が、社会的・経済的なグローバル化の浸透によって、ほぼ一律の価値観に規制されつつあるのだとすれば、現代に生きる大多数の日本人にとって、「思想」はもはや、縁遠いものになりつつあります。なぜなら、「どのように生きるのか」が問題にされるよりも、「どのような経済階層に生きるのか」のみが、誰もにとって、ほぼ唯一の関心事となった時代に暮らしているのだと、多くの人が考えつつあるからです。また一方では、そうした世界的な状況がもたらした、ほとんど論理的な帰結として、経済のほかに信じるべきものを求める人たちが、原型的な「宗教」に走り、世界的な規模で解消の困難な紛争を生じさせているのも、事実です。それが現代社会の姿であるのだとしたら、むしろ今こそ、「思想」と「宗教」について、考える必要があるのではないのでしょうか。 歴史上、いまだかつて、これほどの悲惨と貧困が、世界中に満ちあふれた時代は、ほかにありません。今この瞬間にも、私たちの傍らで、異様な数の人々が飢えて死に、また理不尽な暴力によって殺されているのです。便利で豊かな生活を可能にしたはずの近代になって、なぜこれほど様々な問題が、形づくられてしまったのでしょうか。そして、日本および日本人は、世界にこのような問題を生じさせることになった近代の歴史に対して、これまでどのように考え、何を行おうとしてきたのでしょうか。この授業では、近現代における日本の思想と宗教について学びながら、グローバル化する世界に生じた様々な問題について、考えます。なお、受講者の学習進捗状況に応じて、以下の授業内容とスケジュールを適宜調整することがあります。		○	◎	
150008004	日本の美術	2単位	1・2年	中村 明子	「自分の国のことなのによく知らない」。このような言葉を耳にすることがあります。自国の文化をよく理解すること。その上で、比較文化の学問は始まります。この授業では、日本の美術について理解を深め、その特質について考えていきます。授業は歴史の流れに沿って進めますが、「肖像画」「風景表現」などの項目を設け、西洋美術との比較も行っていきます。人類が生み出す表現には共通のものがあるのか、あるいは民族的、時代的な差異があるのか、日本と西洋の美術を比較し、その考察を深めます。		○	◎	
150008005	日本の近代化と世界	2単位	1・2年	和田 華子	日本は幕末の開国以来、近代的な政治・経済・社会のしくみの確立をめざしました。開国により国際社会に広く開かれた日本は、常に世界の動向に影響を受けながら、近代化を進めていくこととなります。これは現代においても日本の政治及び経済の動向・政策が、世界情勢と連動していることと重なります。よって、日本の近代化を理解する上では、その過程と当時の国際社会の関係を考えることも重要です。また、日本の近代化と国際社会の関係を理解することは、現在さらには将来の日本と国際社会の関係を考えることにもつながります。この授業では、開国以来の日本と国際社会の関係を、政治家や外交官等の政府の動向という視点のみならず、日本の近代化に寄与した民間人や民間団体、そして女性の活動という視点からも探っていきます。受講生には、この授業で学ぶ日本の近代化と国際社会の関係から、現代の日本が国際社会と向かい合うための方法や提案について考えてもらいたいと思います。		○	◎	
150008006	文化交流論	2単位	1・2年	久保 忠行	授業のねらい 紛争、差別、低開発、貧困、格差といった問題は、人類が共通して抱える課題である。こうした問題は、なぜ、どのように生じるのだろうか。本講義では、これらをグローバル化と「他者との共生」に関わるテーマとして考察する。本講義では、海外の事例に加えて、日本で暮らす外国人や難民、あるいは野宿者といった社会的な弱者とされる人びとを対象とする。本講義をとおして受講者は、人類が抱える課題を自らの関係から捉え直して考えることができるようになる。到達目標 グローバル化にともなう共生に向けた課題だけでなく解決にむけた方向性を考察し、説明できるようになること。適切な文献や資料を参照し、それらをもとにして自分の考えを述べるようになること。	○		◎	
150008007	国際関係論	2単位	1・2年	井上 淳	本講義は授業中そして家庭学習でmanabaを使用する。操作に慣れておくこと。本講義では、国際社会について考えるときに必要な基礎知識を習得する。国際関係は現在、さまざまな意味で「ひろがり」をもっている。国際関係の舞台には国(国家)だけでなく国際機関やNGOなどが登場するようになり、その舞台で取り上げられるテーマは安全保障から経済・社会分野にも拡大してきた。このような「ひろがり」を体系的に理解することを旨とする。講義ではまず、国際関係の基本をなす「国(国家)」とは何か、国際関係の世界がどのように発展してきたか、国際関係において日本はどのような存在なのかを学ぶ。さらに、国際関係において問題となっているトピックを分野ごとにとりあげ、その問題の構図(何が問題になっているのか)と問題解決への取り組みについて学び、2・3年で学ぶより専門的な学びへの準備とする。	○	◎		
150008007	国際関係論	2単位	1・2年	久保 忠行	授業のねらい 国際関係論という学問は、戦前の軍国主義への反省、戦後の平和国家をめざす風潮のなかで生まれてきた。つまり国家・国家間の政治が、ファシズムや戦争につながることへの批判からスタートした学問である。この講義では、帝国主義、植民地主義、世界大戦、大戦後の世界のあり方について学ぶ。さらに近年の日本の国際貢献のあり方についても批判的に検討する。到達目標 帝国主義や植民地主義の問題点や過去の戦争の教訓について、それらを過ぎ去った過去ではなく、現代の文脈にも位置づけ理解することができる。	○	◎		
150008008	国家と民族	2単位	3・4年	関口 真理	グローバリズムによって国家を越えた国際協力が進んだ世界は現在、その理念を揺るがす事態の発生によって、岐路に立たされています。国際社会を激しく揺るがす紛争の多くは、「国家」観の違いや「民族」対立が関わっています。「国家」も「民族」も見慣れた言葉ですが、多くの異なる意味や解釈があり、そのために紛争を生じます。講義の前半では「国家」「民族」の原義や、思想、理念などを確認し、国際情勢の理解につなげられるようにします。国際社会、国家の一員としての、個人(自身)のあり方も客観的に考えます。後半では「国家と民族」の一例としてインドを取り上げます。現在のインドは広大な国土に12億超の人口を抱え、多様な民族、言語、宗教が共存する複雑な社会です。現代インドの基盤となったイギリスの植民地統治から独立運動を経て、多民族国家が形成される歴史を辿ります。多くの民族を統合したインドで、いかに国家統治が機能しているのか、どのような問題があるのかを検討し、比較して世界情勢を考察する手がかりとします。本講義はインド地域論のうち近現代史と政治の要素を含みます。文化や暮らしについては関口担当の「アジアの都市」で扱います。	○		◎	

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい/到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008008	国家と民族	2単位	3・4年	山田 朋子	現在、世界ではグローバル化とボーダーレス化が激しい勢いで進展している。情報は瞬時に地球を駆け巡り、企業は軽々と国外に市場と労働力を求める。国境の存在を無意味にするようなこれらの状況にもかかわらず、領土をめぐる国家間の対立は深刻化し、民族間の紛争は絶えない。「国家」とは、「民族」とは何か。この問題を相対化し理解するための一つの手がかりとして、この授業ではユダヤ人問題をとりあげ、彼らの歴史を概観する。ユダヤ人はかつて故郷を追われ、世界中に離散し迫害を受けつつも自らの「国家」建設を実現したが、それは周辺諸国との対立の原因ともなった。こうした彼らの複雑な歴史を検討することにより、現代世界を考える視野を身につける。		○	◎	
150008009	多国籍企業論	2単位	3・4年	里見 泰啓	経済のグローバル化が進展している。各国の経済は相互依存を強め、国内経済の発展は世界経済の成長に左右される。このようななかで、国境を越えて事業活動をする多国籍企業の重要性は高まっている。多国籍企業は経済学や経営学、文化人類学など、いくつかの分野で研究されている。この授業では、それぞれの分野で研究され確立された理論を紹介するとともに、多国籍企業の実態や戦略についても講義する。多国籍企業の活動とグローバル化の中での日本経済の姿を具体的に知るため、具体的に企業の活動を紹介します。中小企業にも世界を視野に入れた経営を展開する企業が多く、このような事例も紹介しながら講義を進める。尚、授業はシラバスをそって進めるが、受講生の関心や理解度に応じて、変更する場合があります。		◎	○	
150008010	異文化間コミュニケーション概論	2単位	2・3年	江頭 浩樹	人と人がコミュニケーションをとる場合、その人達が同じ国に属しているように、一方の人が外国人の人であろうと、自分の相手が属する文化を理解していないと、うまくコミュニケーションをとることは出来ない。ここで言う文化とは、狭義の文化である。具体的には、こトばを用いる人間が行う行動と、その有形無形の所産を指す。この授業では、特にこトばがどのように文化と関わりあっているかを概観する。		◎		○
150008011	異文化間コミュニケーション事例研究	2単位	2・3年	江頭 浩樹	この授業は「異文化間コミュニケーション概論」で概観した内容のいくつかを実際の事例を通して検討を加え、更なる「異文化間コミュニケーション」の理解を深めることを目標とする。この授業では、実際の事例を、受講者に最も身近な日本語と英語を用いたコミュニケーションの中から見出ししていくことにする。		◎		○
150010001	比較文学論Ⅰ	2単位	2・3年	高山 宏	夏目漱石没後百年記念を比較文学の方法を通して行ない、この百年の間に漱石が展覧した日本文学がどうなったかを昭和初年までたどるのに、たとえば谷崎潤一郎と江戸川乱歩の代表作をみる。比較文学があくまで比較文化論の中で論じられるべきことを学ぶ。漱石とこの百年の日本について諸兄に各自なりの一言を持ってもらうのが目標。	○		◎	
150010002	比較文学論Ⅱ	2単位	2・3年	高山 宏	夏目漱石没後百年記念。漱石作中、最も豊かかつ難解とされる傑作、『夢十夜』の徹底精読を重ねる中で、百年前の日本にとってヨーロッパとは何であったのかの基本的認識を持つこと。	○		◎	
150008014	比較演劇論Ⅰ	2単位	2・3年	城殿 智行	歌舞伎や文楽、あるいはオペラやバレエといった、次第に「古典芸能」化しつつある舞台芸術が、依然として根強い人気を誇り、一部に熱狂的なファンを持ちつづけているのは、なぜなのでしょう。そこには、リアリズムにもとづく近代の演劇や演技とは異なる、誇張に満ち起伏に富んだドラマがあり、また長期間の鍛錬を必要とする複雑かつ繊細な技法が、今もなお観客を魅了してやみません。この授業では、日本が生んだ大衆芸能の歴史を、オペラや映画などと対比させながら学ぶことで、演劇文化に対する幅広い視野を養います。家庭の中でも、また社会においても、何らかの役割を演じることがすべての人に求められているのだとすれば、演技や演劇に対する理解を深めることは、舞台芸術の受動的な鑑賞のみにかかわるのではなく、日々の生活全般に影響する基礎教養であるはず。民衆の中から生まれた日本の芸能にふれることで、歴史を生き生きと追体験しうる文化的な素養を身につけましょう。なお、受講者の学習進捗状況に応じて、以下の授業内容とスケジュールを適宜調整することがあります。		◎	○	
150008015	比較演劇論Ⅱ	2単位	2・3年	城殿 智行	前期の「比較演劇論Ⅰ」では、歌舞伎や文楽、あるいはオペラやバレエといった、次第に「古典芸能」化しつつある舞台芸術が、長期間の鍛錬を必要とする複雑かつ繊細な技法に支えられながら、起伏に富んだドラマを提示することで、現代の観客にも十分に訴えかける力を、今もなお示しているのだと学びました。それにつづくこの授業では、まず最初に、演劇・演技における近代的なリアリズムが、様々な経路をたどって確立されていく様子を学びます。しかし近代演劇は、リアリズム以外にも、実に多種多様な試みを生み、各国において、複雑な展開をみせます。その過程において、やがては、自然主義的なリアリズムこそが、むしろ批判の対象とされてきました。そこで、後期の「比較演劇論Ⅱ」では、各国の近現代演劇史を彩った、代表的な劇作家の諸作品を通じて、近代的なリアリズムの精髓を知り、また同時に、反リアリズムを標榜した多様な演劇・演技の可能性を探ることしましょう。なお、受講者の学習進捗状況に応じて、以下の授業内容とスケジュールを適宜調整することがあります。	○	◎		
150008016	言語科学入門Ⅰ	2単位	2・3年	江頭 浩樹	言語学の一環としての英語学を中心に据え、言語を分析し、人間の本質(human nature)を考えていく。主に扱う分野は、言語学・英語学の中心をなす「音声学・音韻論」「形態論」「意味論」「統語論」である。これらの分野を通し、一見乱雑に見える現象に規則性が見いだされることを見ていく。		◎		○
150008017	言語科学入門Ⅱ	2単位	2・3年	江頭 浩樹	言語学の一環としての英語学を中心に据え、言語を分析し、人間の本質(human nature)を考えていく。主に扱う分野は、言語学・英語学の中心をなす「音声学・音韻論」「形態論」「意味論」「統語論」である。これらの分野を通し、一見乱雑に見える現象に規則性が見いだされることを見ていく。		◎		○

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい/到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008018	国際政治経済論 I	2単位	2・3年	井上 淳	※※履修登録前にシラバスを必ず読むこと。この授業は、「ともすればややこしい政治経済問題を、みんなで知恵を出し合って理解してみよう」という授業で、manabaを頻りに使用し、授業中には報告や発言、意見表明を求めます。※※本講義は、現代国際政治経済を理解する上で欠かせない事件やそのとらえ方を理解すること、ひいては海外事情を通じて身近なことを考え、自身が重きをおく価値について考えてみることを目的としている。現代社会においては、報道される時事ニュースの多くが経済と政治にまたがっている。そこに「国際」が加わった国際政治経済論とは、何をどのように考える学問なのだろうか。国際関係論と何が異なるのだろうか。結論からいえば、国際政治経済論の内容と考え方は第二次世界大戦後の秩序形成に大きく関係しており、単なる現代史解説、政治経済事情解説ではない。授業の前半では、国際関係論との違いを意識しながら国際政治経済論(学)の着眼点や考え方に対する理解を深める。授業の後半には、政治と経済が交錯する例として認識しやすい「グローバル化」にちなんだ現象をいくつか取り上げて、それらの問題の構造に対する理解を深める。		○		◎
150008019	国際政治経済論 II	2単位	2・3年	井上 淳	※※履修登録前にシラバスを必ず読むこと。この授業は、「ともすればややこしい政治経済問題を、みんなで知恵を出し合って理解してみよう」という授業で、manabaを頻りに使用し、授業中には報告や発言、意見表明が求められます。※※この授業は、「国際政治経済論」で習得した学びをさらに深めるために、国際政治経済の分野で公刊されている雑誌記事を講読し、報告や質疑応答、解説をおこなう授業である。教科書を読み講義を聴いているだけでは、社会で多様な価値観が交錯している様子はなかなか実感できない。そこで、専門家による比較的最近の雑誌記事を読みながら、問題の所在、関係者の立場、交渉の様子(関係者の立場の違い)を体感し、様々な論点のなから自身の意見・価値観を選び取って(磨いて)もらいたい。		○		◎
150008021	比較社会論	2単位	2・3年	上野 未央	この授業は、都市ロンドンの歴史を通して、ヨーロッパ社会を読み解くことをねらいとしています。中世から近代を取り上げ、ロンドンの都市社会がどのように変化していったのかということ論じます。ロンドンに生きた人々は、どのような仕事をし、何を食べ、どんな家に暮らしていたのでしょうか。この授業では、最近の社会史研究の成果を紹介しつつ、ロンドンの社会にせまります。それによって、中世ヨーロッパにおける「都市」社会のありかた、また近代にかけての変化の様子をさぐります。ロンドンと他の都市との比較も行います。授業は、最初の4回は講義を行い、その後は、配布した論文を使い、参加者による報告と質疑応答を中心とした授業を行います。授業への積極的な参加を求めます。		◎		○
150008021	比較社会論	2単位	2・3年	久保 忠行	授業のねらい 「○○は、××だから、△△に違いない」。私たちは、このような思考方法で人やものごとを判断しがちである。この授業では、このようなものの見方を批判し「あたりまえ」を疑い、自らの頭でものごとを考え意見を述べるができるようになることを目的とする。授業では、文化、社会、家族、性差、人種、言語、民族、病、宗教、生と死といったテーマをとりあげ、人類学の視点から比較する。「比較すること」は、ものごとの優劣をつけることではなく、自己と他者をよりよく知るための知的な営みである。授業をとおして、いつけんすると「あたりまえ」にみえる事柄を相対化し、自己本位にならない柔軟な他者理解の視点を養う。到達目標 授業で取り上げたテーマについて要約したうえで、身近な事例をもとに「あたりまえ」のものごとを相対化することができる。	○		◎	
150008023	日本文学 I (古典)	2単位	1・2年	土屋 順子	この授業では、上田秋成作『雨月物語』を学習します。学習にあたり、日本文学が発し、今日のようなメディア社会をむかえることになったのか、当時の社会背景を通じて考えていきます。『雨月物語』から女性を描く作品3編を取りあげ読んでいきます。この作品のもつ特性・方法・表現・主題などを考えながら古典文学作品への理解を深めることを目標にします。『雨月物語』は安永五年(1776)刊行。怪異を題材として全9編いずれも人間の執着・執念をテーマにしています。中国白話小説の影響を受けつつ、日本古典作品を利用し新しい作品を作り出す面白さを読んでいきます。また引用の『万葉集』・『伊勢物語』・『徒然草』・『源氏物語』等について、紹介していきます。		○	◎	
150008024	日本文学 II (近現代)	2単位	1・2年	安藤 恭子	この講義では、<宮沢賢治>の文学を読み解くことで、現代につながる日本近代社会の諸相について考察します。宗教・科学・農業といった異なる複数の視点からの、近代日本における文明・文化に関する認識・批評が織り込まれているところから、<宮沢賢治>の文学は「多面体の宇宙」と評されてきました。その「宇宙」の諸相について、童話を中心にした作品を取り上げ、様々な視点から具体的に分析します。近代日本の中心となり、海外の文明・文化をいち早く受容した東京から距離をもって、<宮沢賢治>は東北の地から何を発信しようとしていたのか。海外の芸術思潮、世界情勢をも批評的にとらえていた<宮沢賢治>について考えることで、現代の文明・文化についても考えていくことを目標とします。		○	◎	
150008025	日本における異文化	2単位	3・4年	JOHNSON,G.S.	現代日本の文化の多様性を資料の分析を通して確かめる。そして、現代日本の国際接触の文化的影響と反応と「対話」に従事する。主に日本とアメリカ合衆国のさまざまな文化的接点を対象とする。焦点は「日本文化における日米関係:戦争から平和へ」である。戦時中の文化と社会、原爆、敗戦と終戦、教育、男女関係と女性の身分、戦後体制と憲法、等も考察する。論争点も積極的に討論するつもりである。教材は書籍、資料、映画、当時の画像、などの一次、二次資料を含める。学生達は多様な歴史資料の分析仕方が学習出来る。	○		◎	
150008025	日本における異文化	2単位	3・4年	水島 陽子	日本における異文化「ヘブライズムとヘレニズムをめぐって」1. 異文化としてのヨーロッパの諸相:主としてヘブライズム・ヘレニズムを学ぶ。2. 日本におけるキリスト教の受容:歴史と現在、担った人々について考える。3. 異文化の表象(言語・慣習・事物など)の具体例をあげながら、現代日本を考える。4. 日本における異文化のテキスト(文学、絵画、音楽、映像など)に触れる。5. 異文化理解を通して、自己批判を行う。	○		◎	

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい/到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008026	ジェンダー論	2単位	2・3年	石川 照子	「社会的・文化的に規定される性別概念」であるジェンダーは、その社会や文化の中で歴史的に形成されたものであり、多様性と変化の可能性を備えている。「ジェンダー研究は、ありとあらゆる分野にジェンダーが関与してるとして、ジェンダー分析を領域横断的な方法として採用し、既存の学問の中にある「何が真実か」についての基準そのものに挑戦する、きわめて戦線的な学問である」(上野千鶴子)という観点に立ち、本授業では、ジェンダーという視点から、既存の「あたりまえ」とされてきたさまざまな現象や認識を再検討してゆく。そして固定的な二分法による発想を乗り越えて、多様な性のあり方というものを許容する社会をどう構築してゆくのかについて、共に考えてゆきたい。		◎	○	
150008026	ジェンダー論	2単位	2・3年	北原 零未	ジェンダーとは、女性運動・女権運動であると誤解されることもあるが、単に女性解放のみを目的とする思想・学問ではない。男女(雌雄)という生物学的な性(セックス)に対して、ジェンダーは「社会的・文化的に造られた性(あるいは性別概念)」を意味している。ジェンダーという思想・概念はつきつめれば、1人1人の人間がその人らしく生きるとはどういうことかという根源的な問題にまで行き着く。また、ジェンダーは、今や単に男女の問題にとどまらず、人種、国籍、宗教、セクシュアリティ、経済格差といった問題にも関わってくる概念である。また、そもそもは「性別」というものが男/女だけではなくてきている。性や恋愛には可変性があるという考え方は今ではグローバルスタンダードとなっている。一方、日本ではどうか。教育の世界では個性尊重が叫ばれ、社会は多様化したと言われる現代日本であるが、明治以降の個性制度を中心とした家父長制・年功序列・男尊女卑を長らく良しとし、横並びを尊んできた日本にあって、社会は本当に多様化しているのか、どう多様化しているのか、あるいはいまだ多様化が許されていないとすれば、今後どうすれば各個人の多様な生き方が許容される社会になっていくのか、といったことを考える切り口となるような講座にしたい。		◎	○	
150008027	表象文化論	2単位	2・3年	城殿 智行	映画・映像の見方を学ぶ授業です。映画・映像を卒論のテーマに想定し、同じ担当者による3年生向けの「比較文化演習」を選択する方は、できるだけこの授業を履修して下さい。いま私たちは、TVやインターネット等を通じて配信される無数の映像にとりかこまれて暮らしていますが、この授業では、映像を見る、という体験の意味をあらためて意識的にとらえ直します。映像メディアは、写真から映画へ、映画からTVへ、そして現在はデジタル・コンテンツへと、比重を移してきました。しかし、映像表現の基礎は、ここ100年のうちに、映画によって形づくられてきたのだといえます。授業を通じて、世界の様々な映画を見ることで、映像の文法を習得し、社会に流通する膨大な映像情報を批判的に理解する視点を養いましょう。なお、受講者の学習進捗状況に応じて、以下の授業内容とスケジュールを適宜調整することがあります。		◎	○	
150010003	フランス語Ⅴ	1単位	2年	松井美知子	フランス語を1年間学んだ学生さんを対象とし、中級文法を学びながらまとまったフランス語のテキストを読解できるようになることを第一の目的とします。教科書は、「フランスの若者は いま」を使用。様々な若者のインタビューを記述した体裁になっています。長いものもありますが、文法を初級から学びなおしつつ進めるようになっていきます。内容は、日仏の食について、ヴァカンスとアルバイト、家庭事情、将来の希望など多岐にわたっており、学生のみならずとも共通する身近な興味あるものとなっています。この授業を通じて現在のフランス人のライフスタイルを知ることができるよう。また関連するフランスのニュースを取り上げ、DVDで鑑賞して文化的な理解も深めることを第二の目的とします。楽しくフランス語を学んでいきましょう。	○	◎		
150010003	フランス語Ⅴ	1単位	2年	稲垣 正久	一年次に学習した文法事項を復習しつつ、「読む」「書く」「話す」「聞く」といった基本的言語行為を繰り返し練習することで、総合的に語学力を高めることを目指します。	○	◎		
150010003	フランス語Ⅴ	1単位	2年	松丸 和弘	この授業はフランス語Ⅱの学習をすでに終了した学生を対象とします。初級クラスにおいて既に学習した内容を復習しながら、さらに高度な文法事項を学び、フランス語を理解し表現する実践的能力を獲得することを目標としています。	○	◎		
150010004	フランス語Ⅵ	1単位	2年	松井美知子	前期にひきつづき、フランスの若者のインタビューを記述した新しいテキスト「フランスの若者は いま」を読み進め、中級文法を学び、まとまったテキストを読める読解力を養っていきます。また、フランスのニュースから、若者に関連するものをDVDで鑑賞し、フランス人のライフスタイルと文化的な背景も学んでいきます。また、付属の練習問題も行い、知識をたしかなものにします。細かい点は前期と同様。	○	◎		
150010004	フランス語Ⅵ	1単位	2年	稲垣 正久	フランス語5に引き続き、総合的に語学力の向上を目指します。	○	◎		
150010004	フランス語Ⅵ	1単位	2年	松丸 和弘	この授業はフランス語Ⅱの学習をすでに終了した学生を対象とします。初級クラスにおいて既に学習した内容を復習しながら、さらに高度な文法事項を学び、フランス語を理解し表現する実践的能力を獲得することを目標としています。	○	◎		
150010005	ドイツ語Ⅴ	1単位	2年	網島 寿秀	1年次のドイツ語の授業で、初等文法を学び始めたわけですが、その知識をさらに確かなものとしながら、未習得の事がらを補足するのがこのクラスのねらいです。したがって文法内容は、若干新しいことはあるものの、1年次に覚えたことの復習と補足が中心となります。いろいろな練習や読解を通してそれに習熟し、語彙をふやしながらい、ドイツ語を正しく聞き、話し、読み、書く応用力を身につけます。そしていつか、ドイツ語が作り出す独特の深みのある世界に触れる、その準備をします。	○	◎		
150010005	ドイツ語Ⅴ	1単位	2年	西野 路代	1年次での学習事項をもとに、さらに深くドイツ語を学んでいきます。まずは初級文法の完成を目指しましょう。ドイツ語の文法は、「動詞に関すること」、「名詞に関すること」、「語順・構文に関すること」に大まかに分けられます。一年次で学習した個々の文法事項をこうした大きな括りで再度とらえ、体系的にドイツ語文法を俯瞰していきたいと思えます。ぐっと既習事項が整理されるはず。そのようにして身につけた確かなドイツ語文法の力をもとに、さらに発展的にドイツ語を学んでいきましょう。随時、映画やインターネットのニュースなどを用いて、ドイツの社会や文化についても学習していきたいと思えます。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150010006	ドイツ語VI	1単位	2年	網島 寿秀	ドイツ語Vからひき続き、1年次にひととおり見渡したドイツ語の文法の知識をより確かなものとするのがこのクラスのねらいです。そして、さまざまな練習や読解を通して、ドイツ語の知識をしっかりと身につけ、語彙をふやしながら、ドイツ語を正しく聞き、話し、読み、書く応用力を養います。そして近い将来には、ドイツ語が作り出す独特の深みのある世界に親しむことができるよう、その背景にあるものにもすこしづつ触れてゆきます。	○	◎		
150010006	ドイツ語VI	1単位	2年	西野 路代	これまでの学習を通して、ドイツ語を理解するために必要な文法事項をひととおり身につけたことになるわけですが、今度はその文法の知識を臨機応変に使いこなしていくことを考えてみましょう。童話、ニュース、インターネット、映画…など、さまざまな媒介を通してたくさんドイツ語に触れていきましょう。授業ではあくまで正しい文法の知識に基づく丁寧なドイツ語の理解を目指します。自分の感覚や思い込み、単語の意味の羅列によるものではなく、文法の理解を通じてドイツ語が持つ構造をしっかりと捉え理解する力を養いたいと思います。また、地誌や文化、社会、歴史などドイツに関するテキストに触れることによって、ドイツ語理解を深めるためのバックボーンともなるさまざまな知識も身につけて欲しいと思います。	○	◎		
150010007	スペイン語V	1単位	2年	貴井 一美	初級文法の内容を復習しながらスペインに関する文章を購読していきます。初級文法の基礎をしっかりと固めると同時に、読むこと、話すこと、書くことを通じてスペイン語を実際に身につけることを目標としています。	○	◎		
150010008	スペイン語VI	1単位	2年	貴井 一美	前期のスペイン語と同じテキストを引き続き使用し、初級文法を基本にしてスペインについて購読していきます。	○	◎		
150010009	ロシア語V	1単位	2年	齋藤 毅	前年度の「ロシア語I、II」および「ロシア語III、IV」と同じ教科書を用い、後期の「ロシア語V」と合わせて1年間で、ロシア語の初級文法、語彙、基本表現をしっかりと身につけることをねらいます。文字の筆記体や、辞書の引き方など、これからさらにロシア語学習を続けてゆくために必要な練習を行います。1年次に習ったことの復習や、発音練習にも多く時間を割きます。授業の進め方は皆さんの習熟度を見ながら調節しますので、下のスケジュールは大まかな目安と考えてください。	○	◎		
150010010	ロシア語VI	1単位	2年	齋藤 毅	前期の「ロシア語V」の続編の授業です。詳しくは「ロシア語IV」の項目を見てください。	○	◎		
150010011	中国語V	1単位	2年	石川 照子	1年次で学習した文法や表現をブラッシュアップして、さらに豊かな読解力、表現力等を習得する。	○	◎		
150010011	中国語V	1単位	2年	櫻井 幸江	初級の中国語の学習を終了した学生を対象とするクラスである。辞書を引きながら様々なスタイルの文章を講読していく。しかし読解力の養成だけが目標ではなく、中国語で文章を書く訓練やCDなどを用いた音声の反復練習を行い、簡単な会話や自己表現ができる基礎的実力を養いたい。テキストに拠って授業を進めていくが、随時プリントをまじえながら中国の様々な面や音楽・映画を紹介していきたい。なお、学生の理解度に応じて進度は調整する。	○	◎		
150010012	中国語VI	1単位	2年	石川 照子	1年次及び2年次前期で学習した文法や表現をブラッシュアップして、さらに豊かな読解力、表現力等を習得する。	○	◎		
150010012	中国語VI	1単位	2年	櫻井 幸江	前期に引き続き、辞書を引きながら様々なスタイルの文章を講読していく。しかし、読解力の養成だけが目標ではなく、中国語で文章を書く訓練やCDなどを用いた音声の反復練習を行い、簡単な会話や自己表現ができる基礎的実力を養いたい。テキストに拠って授業を進めていくが、随時プリントをまじえながら中国の様々な面や音楽・映画を紹介していきたい。なお、学生の理解度に応じて進度は調整する。	○	◎		
150014001	韓国語V	1単位	2年	金 愛慶	韓国語初級の学習を終了した学生を対象にしたクラスである。より高度な韓国語の文法と表現をほぼ一通り勉強し、それらに応用した会話の練習を行う。また、読み、書き、聞きとり全般の実力を養成して、ネイティブスピーカーとある程度意思創通が可能になることを目指す。イメージとしては韓国の旅行で困らないレベルに仕上げるのが目標である。	○	◎		
150014002	韓国語VI	1単位	2年	金 愛慶	韓国語Vの次の単位として、より高度な応用表現の練習に進む。日常生活で自在に韓国語を使いこなせるようにすること、たとえば韓国でのホームステイを楽しむことができるレベルへの到達が目標である。そのために、この授業ではなるべく皆さんの言葉と表現を身につける。その実践として、学生の皆さんには積極的に韓国語で発言することを望む。最終的には、この授業の全課程が終わった段階で、皆さんが独学でより高いレベルの韓国語習得を継続してゆける実力がついているようにしたい。	○	◎		
151208001	アジア研究入門A I (文化と社会)	2単位	2年	佐藤 実	この講義では、中国の伝統的な世界観についてかんがえたいとおもいます。世界観とは、この世界をどうものとしてみているのかということです。この中国の伝統的世界観は東アジアのもののみかたにおおきな影響をあたえています。この講義を通じて、これからアジアコースで学ぶ事柄に適應する思想をかんがえたいとおもいます。	○	◎		
151208002	アジア研究入門A II (文化と社会)	2単位	2年	佐藤 実	この講義では「自然」というキーワードをめぐって、老荘思想とよばれる中国の伝統的な思想を中心に紹介します。「自然」であるというのはどういうことか。ナチュラルメークは「自然」な化粧なのか。ナチュラルフードは「自然」な食べ物なのか。かんがえてみたいとおもいます。	○	◎		
151208003	アジア研究入門B I (思想と宗教)	2単位	2年	銭 国紅	中国を知り、中国的思维、中国的考え方を探ることを目的とする。授業は多数の原文や映像の資料を使い、一部の資料を訳したりすることも予定している。具体的には現在の中国を示す中国語資料を訳し、それに対する問題提起と批評を試みる。さらにそれに関連する映像資料をも鑑賞し、映像の意味とその裏にある社会的、文化的背景との関係を探る。	○			◎

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
151208004	アジア研究入門B II (思想と宗教)	2単位	2年	銭 国紅	中国を知り、中国的思维と考え方を探ることを目的とする。授業は多数の原文や映像の資料を使い、一部の資料を訳したりすることも予定している。具体的には現在の中国人の思维や考え方を示す中国語資料を訳し、それに対する問題提起と批評を試みる。さらにそれに関連する映像資料をもいづつか鑑賞し、映像の意味とその裏にある社会的、文化的背景との関係を探る。	○			◎
151208005	アジア研究入門C I (文学と芸術)	2単位	2年	赤松美和子	東アジアにおける日本文化の受容と再生産 東アジアにおける日本の現代文学、ドラマ、J-POP、化粧品、ファッション誌などの受容、再生産の考察をめぐって、同時代の東アジアへの理解を深めること、また日本文化を相対化し考えることを目的としています。	○		◎	
151208006	アジア研究入門C II (文学と芸術)	2単位	2年	赤松美和子	木蘭(ムーラン)の1500年と女性戦士物語本授業では、古楽府「木蘭辞」が、現在までの1500年に渡って、どのように伝承、受容、再生産され続けたのかを考察します。「木蘭辞」は、約1500年前に創作されたと考えられますが、20世紀以降も、京劇や映画などの題材として再生産され続けました。中国の文学、芸術を、「木蘭辞」の変容を通して、漢詩からディズニー映画まで、様々な形式で味わうと共に、20世紀以降、「木蘭辞」が書き換えられ再生産され続けた意味を、中国の近現代史と合わせて考察し、文化としての中国を相対化し、理解することも目的としています。また、「木蘭」にみられる異装(男装・女装)という行為の文化比較や、リボンの騎士、セーラームーン、プリキュアに至る女性戦士アニメ物語の歴史についても考察します。	○		◎	
151210001	アジア文化研究A I (近代文学)	2単位	3・4年	赤松美和子	東アジア近現代文学の諸相と台湾 台湾との関係をキーワードに20世紀の東アジアの文学(短編小説や詩)を読んていきます。実際に作品を読んだ上でディスカッションしますので、事前に作品を読み、批評文を持参したうえで授業に出席してください。台湾文学を中心に、台湾に影響を与えた中国文学、日本文学についても目配りしたうえで、東アジアの近現代文学の諸相について考察します。とりわけ日本の植民地であった地域において日本語を使って書かれた文学を読むことを通じて、日本語とは、母語とは、日本文学とは何なのか、再認識してほしいと考えています。東アジアの文学への知識を深めると共に、日本、日本語というものを相対的に認識するきっかけとなることを目的としています。			◎	○
151210002	アジア文化研究A II (近代文学)	2単位	3・4年	赤松美和子	台湾映画と日本表象日本との関係をキーワードに台湾映画を分析します。実際に作品の一部を鑑賞しますので、毎回、批評文の提出を求めます。台湾映画、および台湾への知識を深めると共に、日本というものを相対的に認識するきっかけとなること、日本と台湾、或は東アジアの近現代史を映画によって読み直すことも目的としています。			◎	○
151208009	アジア文化研究B I (政治と経済)	2単位	3・4年	石川 照子	テーマ:「アジアの女性労働」「アジア」「女性」「ジェンダー」をキーワードとして、教材に沿ってそれらを考えてゆく。具体的には、まず近現代日本の家族と女性について学ぶ。その上で、特に東アジアの女性・ジェンダーの問題について、労働に焦点を当てて比較・検討してゆく。こうした作業の中から、改めてアジアという地域の特色や課題を理解することをめざしたい。	○	◎		
151208010	アジア文化研究B II (政治と経済)	2単位	3・4年	石川 照子	「上海 過去・現在・未来」中国は現在めざましい発展を遂げつつある。しかしその一方で、格差の拡大、環境の悪化等の問題も深刻化しつつある。こうした複雑で多層的な現代中国社会を、中国最大の経済都市上海について学ぶことを通じて理解してゆく。そして上海の過去・現在について学び、未来を展望する中で、現代中国に対するより深い知識と理解を得て、さらに未来の中国についても検討してゆきたいと思う。	○	◎		
151208011	アジア文化研究C I (芸術と思想)	2単位	3・4年	佐藤 実	この授業では、伝統中国が音楽をどのようなものとしてとらえていたか(楽論といいますが)をみていきます。中国の楽論は紀元前からあるのですが、音楽だけではなく、書道や絵画にまでも影響をあたえています。そして、実はわたしたちの日常的なかんがえかたにつながるものでもあります。漢文でかかれた楽論を中心に中国の古典をよんでいきます。某大学の学園祭でヘヴィメタ禁止令がでたことがあるのですが、どうしてそうなるのでしょうか。	◎		○	
151208012	アジア文化研究C II (芸術と思想)	2単位	3・4年	佐藤 実	この授業では、中国の山水画、花鳥画についてかんがえていきます。山水画はただ風景をえがいているのではなく、花鳥画はただいきものを模写しているのではありません。なにをえがいているのかについてみていきたいとおもいます。またそれと関連して、吉祥画とよばれる幸福をこぼくための絵についてもまなびます。	◎		○	
151208013	アジア文化研究D I (歴史と風土)	2単位	3・4年	銭 国紅	中日両国の西洋化とそれを生み出す精神的文化的風土を思考することを目的とする。近代中国と近代日本におけるグローバル化の歩みの比較を試み、その本質と特徴を明らかにするとともに、西洋だけでなく、日本からも刺激を受けた近代中国の等身大な姿を見つめ再評価する。前期では、久米邦武『米欧回覧実記』第5巻を近代語訳し、日本人のヨーロッパ像とアジア像を比較し、そこから何か見えるかを考える。具体的には生(原文)の資料を読み、初歩的な漢文調日本語を読解する一方、現在の中国・日本の新聞やマスコミに出ている関連記事や話題をも取り上げ、歴史と現在との関係性を思考する。			○	◎
151208014	アジア文化研究D II (歴史と風土)	2単位	3・4年	銭 国紅	中日両国の西洋化とそれを生み出す精神的文化的風土を思考する。近代中国と近代日本におけるグローバル化への歩みの比較を試み、その本質と特徴を明らかにするとともに、西洋だけでなく、日本からも刺激を受けた近代中国の等身大な姿を見つめ再評価する。後期は中国の米欧訪問記や日本訪問記を日本語に訳し、中国人の世界観や文明観を分析し、その意味するところを把握する。具体的には生(原文)の資料を読み、初歩的な学術中国語を読解する一方、現在の中国・日本の新聞やマスコミに出ている関連記事や話題をも取り上げ、歴史と現在との関係性を思考する。	○			◎

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎:特に関係する ○:関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
151210003	アジア文化研究E I (宗教と文学)	2単位	3・4年	上垣外憲一	宗教と文学の関わりは大変深いものがあります。「神話」を宗教的文学とみなせば、宗教と文学の関わりは、まだ文字のない部族社会からはじまっているのです。この授業では、宗教と文学の関わり、「古い」部分、つまり時代区分で言えば、歴史以前、古代、中世を扱います。主に日本における説話文学についてお話しますが、日本の説話文学は、インド、中国、朝鮮と密接に結びついており、視野はアジア大に拡大していきます。ひろく日本の宗教的説話を、海外の説話と比較しながら考えたいという聴講者を歓迎します。	◎		○	
151210004	アジア文化研究E II (宗教と文学)	2単位	3・4年	上垣外憲一	この授業は、日本の時代で言えば、近世から近代、現代までの宗教と文学を講義します。日本のことも多いですが、それ以上に西洋近代における宗教と文学の問題を取り扱います。日本の近代は、基本的に西洋の近代化の反映であり、西洋で起こった「宗教VS文学」問題の理解なしには、日本や中国の近代の状況を理解できないからです。話の舞台が従って「東奔西走」しますが、それが近現代の世界の特徴でもあるのです。視野を広くして、講義の行く先についてください。	◎		○	
151408001	アメリカ研究入門A I (文化と社会)	2単位	2年	木野 淳子	北米大陸は、もとはさまざまな部族の先住民の土地であり、アメリカ合衆国、カナダおよびメキシコの国境は、後から入植した白人によって定められた。そのため、三国の成立およびその後の発展は複雑に絡み合っている。特に、共に旧イギリス領植民地であり、長い国境を共有するアメリカとカナダの関係は重要である。そこで、時に同一視されがちなアメリカとカナダの相違点を比較することによって学び、それぞれの国の文化、社会の特徴を学び、また、国家の成立の仕方の違いを理解することを目標とする。	○	◎		
151408002	アメリカ研究入門A II (文化と社会)	2単位	2年	木野 淳子	北米大陸は、もとはさまざまな部族の先住民の土地であり、アメリカ合衆国、カナダおよびメキシコの国境は、後から入植した白人によって定められた。そのため、三国の成立およびその後の発展は複雑に絡み合っている。特に、共に旧イギリス領植民地であり、長い国境を共有するアメリカとカナダの関係は重要である。そこで、時に同一視されがちなアメリカとカナダの相違点を比較することによって学び、それぞれの国の文化、社会の特徴を学び、また、国家の成立の仕方の違いを理解することを目標とする。	○	◎		
151408003	アメリカ研究入門B I (思想と宗教)	2単位	2年	高田 馨里	本授業では、アメリカ合衆国の歴史と現在における思想と宗教を取り上げ、「アメリカ的価値観」や「アメリカ的信条」の源泉が歴史的にどのように形成されてきたのかを概観する。また、宗教がどの程度アメリカ社会の変動と相互に関連していたのかを理解することが本授業のねらいである。	◎		○	
151408004	アメリカ研究入門B II (思想と宗教)	2単位	2年	高田 馨里	本授業では、アメリカ合衆国の歴史と現在における思想と宗教を取り上げ、「アメリカ的価値観」や「アメリカ的信条」の源泉が歴史的にどのように形成されてきたのかを概観する。また、宗教が20世紀のアメリカ社会の変動と相互に関連していたのかを理解することが本授業のねらいである。	◎		○	
151408005	アメリカ研究入門C I (文学と芸術)	2単位	2年	米塚 真治	「歴史はすべて主観的である」と19世紀アメリカの思想家エマーソンは言っています。「客観的な歴史」になど意味はない。歴史とは、個人が過去の人になりきって、その生活を追体験してみ、それで初めて意味を持つのだ。そもそも人間とは、自分がどこから来たかを知ることによって、これからどこへ行くのかを知ろうとする存在ではないか？彼はそう語るのです。エマーソンの見方を借りれば、過去の人々が書いた詩や物語や芝居を読むことは、歴史の中に「主観的」に入り込む(そして私たちの将来を見通すための恰好のチャンスになる)のではないのでしょうか。この授業ではP. Timothy Ervin A Japanese Collegiate Guide to America and American Literatureというテキストを利用します。同書の特徴としては、1990年代に「崩壊」する以前の旧文学史・旧キャンの趣を色濃く残していること、地域的特性への目配りがなされていること、影響の連続体(たとえば先住民の口承やピューリタンのテキストと、現代作家との一致が強調(強弁?)されていることなどが挙げられます。授業では、テキストの配列と記述を適宜利用しながら、登場する主な詩・小説・文書・芝居などのあらすじと読みどころを解説し、価値評価を加えてゆきます。その際、現在の事象・現在の日本への言及も頻りになされるはずですが、それはたんに皆さんの理解を補助するためではなく、授業の目的そのものなのです。アメリカ合衆国の文化史・社会史の具体的なエピソードと、後世に名を残す人々の思想を通じて、私たち自身の将来を見通すことが到達目標です。		○	◎	
151408006	アメリカ研究入門C II (文学と芸術)	2単位	2年	米塚 真治	「歴史はすべて主観的である」と19世紀アメリカの思想家エマーソンは言っています。「客観的な歴史」になど意味はない。歴史とは、個人が過去の人になりきって、その生活を追体験してみ、それで初めて意味を持つのだ。そもそも人間とは、自分がどこから来たかを知ることによって、これからどこへ行くのかを知ろうとする存在ではないか？彼はそう語るのです。エマーソンの見方を借りれば、過去の人々が書いた詩や物語や芝居を読むことは、歴史の中に「主観的」に入り込む(そして私たちの将来を見通すための恰好のチャンスになる)のではないのでしょうか。授業の前半は、P. Timothy Ervin A Japanese Collegiate Guide to America and American Literatureというテキストを利用して、1970年代までの文学を扱います。同書の特徴と、授業の進め方は、前期Cのシラバスを参照してください。後半はテキストがカバーしている年代以降の文学を補足し、そのあと「芸術」の諸ジャンルを扱います。前後半を通じて、現在の事象・現在の日本への言及も頻りになされるはずですが、それはたんに皆さんの理解を補助するためではなく、授業の目的そのものなのです。アメリカ合衆国の文化史・社会史の具体的なエピソードと、後世に名を残す人々の思想を通じて、私たち自身の将来を見通すことが到達目標です。		○	◎	
151408007	アメリカ文化研究A I (伝統と倫理)	2単位	3・4年	羽鳥 修	アメリカ合衆国(以下、アメリカ)は、一方で世界に名だたる物質文明の国であり、他方では現在もなお「宗教的な」国でもあります。こうしたアメリカがもつ「二つの顔」を私たちはどのように理解したらよいのでしょうか。例えば、アメリカは一方で独立宣言において「すべての人間の平等」を謳いながら、他方では奴隷制を継続し、奴隷制廃止後には人種差別を容認していた歴史をもつ。こうした矛盾する理解困難なアメリカについて、本授業ではアメリカの歴史を辿りながら、伝統の形成過程と伝統が変化する過程を考察することを目指します。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
151408008	アメリカ文化研究AⅡ(伝統と倫理)	2単位	3・4年	羽鳥 修	アメリカ合衆国(以下、アメリカ)は、一方で世界に名だたる物質文明の国であり、他方では現在もなお「宗教的な」国でもあります。こうしたアメリカがもつ「二つの顔」を私たちはどのように理解したらよいのでしょうか。例えば、アメリカは一方で独立宣言において「すべての人間の平等」を謳いながら、他方では奴隷制を継続し、奴隷制廃止後には人種差別を容認していた歴史をもつ。こうした矛盾する理解困難なアメリカについて、本授業ではアメリカの歴史を辿りながら、伝統の形成過程と伝統が変化する過程を考察することを目指します。	○	◎		
151408009	アメリカ文化研究BⅠ(価値観と夢)	2単位	3・4年	石岡 良治	ネット社会の到来、記録媒体のデジタル化などの進行によって、かつてなく重要性を増している映像・視覚文化の諸問題を、アメリカ文化史との関わりで考察する。言うまでもなく、アメリカ文化が視覚芸術にもたらした最大の影響は、「夢の工場」とも言われるハリウッド映画の世界であるが、抽象表現主義やポップアートなど、美術における貢献も無視できない。二十世紀以降のアメリカにおける視覚文化の興隆は、ヨーロッパ文化との交流を伴いつつ、一方で文学や絵画などの芸術、他方では映画やジャズなどの大衆文化という、二つの「モダンイズム」として現れた。さらに1970年代の石油危機後の「ポストモダニティ」において、多様な来歴を持つ世界各地の文化が参照され、現在に至っている。本授業では、以上のような歴史的背景をふまえて、絵画や実験映画、スラップスティック・コメディやアニメーションなど、様々な映像・視覚文化作品を検討することによって、ハイ・アートと大衆文化の区分、芸術ジャンルの自明性などが、いかにして問い直されてきたのかを見ていきたい。ハリウッドの「物語映画」以外の作品を積極的に扱うことによって、アメリカの映像文化の多様性に目を向けることを目標にする。また、随時日本の視覚文化との関わりにも触れ、広くヴィジュアル・リテラシーの問題について考察したい。	○	◎		
151408010	アメリカ文化研究BⅡ(価値観と夢)	2単位	3・4年	石岡 良治	ネット社会の到来、記録媒体のデジタル化などの進行によって、かつてなく重要性を増している映像・視覚文化の諸問題を、アメリカ文化史との関わりで考察する。言うまでもなく、アメリカ文化が視覚芸術にもたらした最大の影響は、「夢の工場」とも言われるハリウッド映画の世界であるが、抽象表現主義やポップアートなど、美術における貢献も無視できない。二十世紀以降のアメリカにおける視覚文化の興隆は、ヨーロッパ文化との交流を伴いつつ、一方で文学や絵画などの芸術、他方では映画やジャズなどの大衆文化という、二つの「モダンイズム」として現れた。さらに1970年代の石油危機後の「ポストモダニティ」において、多様な来歴を持つ世界各地の文化が参照され、現在に至っている。本授業では、以上のような歴史的背景をふまえて、絵画や実験映画、スラップスティック・コメディやアニメーションなど、様々な映像・視覚文化作品を検討することによって、ハイ・アートと大衆文化の区分、芸術ジャンルの自明性などが、いかにして問い直されてきたのかを見ていきたい。ハリウッドの「物語映画」以外の作品を積極的に扱うことによって、アメリカの映像文化の多様性に目を向けることを目標にする。また、随時日本の視覚文化との関わりにも触れ、広くヴィジュアル・リテラシーの問題について考察したい。	○	◎		
151408011	アメリカ文化研究CⅠ(歴史と風土)	2単位	3・4年	木野 淳子	アメリカ・カナダ比較史。ともに旧イギリス領植民地であり、舞台(北米大陸)と登場人物(先住民と移民)を同じくしながら、なぜカナダとアメリカは、今日異なる国家として存在しているのか。長い国境を共有する米加間の様々な問題や、相互に及ぼした影響を比較して検討することにより、両国への理解を深める。	◎	○		
151408012	アメリカ文化研究CⅡ(歴史と風土)	2単位	3・4年	木野 淳子	アメリカ・カナダ比較史。ともに旧イギリス領植民地であり、舞台(北米大陸)と登場人物(先住民と移民)を同じくしながら、なぜカナダとアメリカは、今日異なる国家として存在しているのか。長い国境を共有する米加間の様々な問題や、相互に及ぼした影響を比較して検討することにより、両国への理解を深める。	◎	○		
151408013	アメリカ文化研究DⅠ(政治と経済)	2単位	3・4年	高田 馨里	本授業の目的は、様々なアメリカ合衆国の政治・経済問題を取り上げ時事問題と関連させながら、比較の視点を重視して、現代国際社会と現代日米関係を読み解く力を養成することを目的とする。授業ではアメリカ合衆国の始まりから20世紀半ば、現代の国際経済秩序を形成したアメリカ政治経済政策について理解できるよう講義を進める。またしばしば行グループディスカッションでは、アメリカの政治や経済と時事問題とを関連付けながら、国際秩序の起点やルールについて学ぶ。またアメリカ政治・経済のみならず、現代アメリカならびに国際社会問題に関心を持つ学生を歓迎する。			○	◎
151408014	アメリカ文化研究DⅡ(政治と経済)	2単位	3・4年	高田 馨里	本授業の目的は、様々なアメリカ合衆国の政治・経済問題を取り上げ時事問題と関連させながら、比較の視点を重視して、現代国際社会と現代日米関係を読み解く力を養成することを目的とする。授業では20世紀半ば以降の変化の激しい現代の国際経済秩序におけるアメリカ政治経済政策について理解できるよう講義を進める。またしばしば行グループディスカッションでは、アメリカの政治や経済と時事問題とを関連付けながら、国際秩序の起点やルールについて学ぶ。またアメリカ政治・経済のみならず、現代アメリカ社会や国際社会問題に関心を持つ学生を歓迎する。			○	◎
151408015	アメリカ文化研究EⅠ(文学)	2単位	3・4年	米塚 真治	バーナード・マラマッド(1914-86)の短編集を読みます。1950年代からアメリカ文学を席捲し、現在に至るまで主要な地位を占めているユダヤ系の作家たちの中でも、代表格の一人がマラマッドです。滑稽な失敗を全力で繰り返す主人公の姿を、アイロニーや自嘲をこめて描きながら、しかしそうするほかないのだ、それが人生の実相なのだという肯定感を伝えてくるのが、彼の魅力と言えます。主要作は過去にほとんど邦訳されていますが、ここに収められた短編6編は、没後に編まれた単行本未収録作品から抜き出したもので、したがって未訳です。中には代表作の長編『アシスタント』の原形となった作品もあります。多くは読み進めるにつれて主人公への印象が反転し、読者は自省させられたり、煙に巻かれたりします。到達目標としては、長い苦難の歴史を経てユダヤ人たちが獲得した「生き抜く」ための人生観(それは、単にタフというとは異なり)に触れ、受講者自らの人生観を確認し更新すること。そして、高い小説技巧が凝らされた作品を、設問に答えたり、自分たちで設問を作って互いに答えたりしながら読んでいくことで、小説作品とのアクティブな関わり方(読書術)を覚えることです。			◎	○

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい/到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
151408016	アメリカ文化研究EⅡ(文学)	2単位	3・4年	米塚 真治	アメリカ生まれの日系二世・三世の作家6名が英語で書いた短編6編を取めた作品集を読みます。書かれた年代は1960年代から1990年代まで、作品の舞台となるのは第二次世界大戦前から1990年代までです。著者たちには創作のみで生計を立てていた作家は少なく(主婦が多い)、一部を除いてアメリカ文学史に名が挙がってくるような作家ではありません。が、読んでみると、テーマ設定や語り、メッセージの強度、小説としての強度など、それぞれに強みを持った作品ばかりです。第二次大戦中の強制収容や兵役志願の苦難を経て、同化と沈黙を強いられるも、60年代カウンターカルチャーに呼応して、抗議と異議申し立てを始めた二世たち。日系のアイデンティティ再構築を図り、バイオニアとしての一世を再評価しつつも、一世のアジア系差別や集団主義には反発を感じる三世たち。両者の立場の違いも見所です。到達目標としては、文学がアイデンティティの形成や再定義に果たす役割を知ること。明治の海外移民開始から、領土拡張、敗戦、アメリカの保護下へと至る過程を踏まえ、日本の歴史をふだんとは別の角度から考えること。そして、設問に答えたり、自分たちで設問を作って互いに答えたりしながら小説を読んでいくことで、小説とのアクティブな関わり方(読書術)を覚えることです。			◎	○
151308001	ヨーロッパ研究入門AⅠ(文化と社会)	2単位	2年	渡邊 顕彦	古代ギリシアの文化遺産を学ぶための手がかりとして、古典文学およびギリシア神話の基本テキスト『オデュッセイア』を読み解きます。また同作品を翻案したアメリカ映画『オー・ブラザー』の鑑賞とディスカッションを通し、ギリシア古典の現代にいたる意義について考えます。要するに西洋における古典的教養の半分を成す古代ギリシア文学を、その再構築可能な「実像」と、現代における受容という二つの側面から検討し、理解に努めることがこの授業の目的です。		◎		○
151308002	ヨーロッパ研究入門AⅡ(文化と社会)	2単位	2年	渡邊 顕彦	古代ローマの文化遺産を学ぶための第一歩として、ラテン文学の基本テキスト『ガリア戦記』と、それと対照的なデカダン小説『サテリコン』を読んでいきます。またイギリス映画『ライフ・オブ・ブライアン』およびイタリア映画『サテリコン』を部分的に鑑賞し、ローマ帝国の現代における意義について考えます。要するに西洋における古典的教養の半分を成すラテン文学を、その再構築可能な「実像」と、現代における受容という二つの側面から理解することがこの授業の目的です。		◎		○
151308003	ヨーロッパ研究入門BⅠ(思想と宗教)	2単位	2年	上野 未央	キリスト教は、ヨーロッパの政治や社会と密接に関わり合ってきました。この授業では、ヨーロッパ文化を学ぶための基礎として、キリスト教とヨーロッパの人々との関わりを歴史的に考察します。授業後にはコメントを提出してもらい、授業をふりかえる機会を設けるとともに、次の授業の導入で、いくつかのコメントを紹介し、いろいろな意見を紹介していきたいと思います。質問も受け付けます。コメントを利用して受講生の関心・理解度を反映させながら授業を進めていきます。また、期末テストのほかに、小テストを2回行います。	◎		○	
151308004	ヨーロッパ研究入門BⅡ(思想と宗教)	2単位	2年	上野 未央	「ヨーロッパ研究入門」(思想と宗教)Ⅰに続き、キリスト教の歴史を概観したあとで、聖母マリアに焦点を当てます。聖母マリアをめぐる歴史を学ぶことで、ヨーロッパ文化の底流を学ぶことをわらわらとしていきます。聖母マリアは今なお、世界中で崇敬の対象となっています。この授業では、聖母マリアにまつわる伝説や、マリアを賛美した歌、マリアを描いたステンドグラス・絵画など、様々な史料を提示しながら、聖母マリア崇敬の変容と、その背景にある歴史について考察します。主に宗教改革期までを取り上げますが、講義の最後では、日本に伝えられた聖母マリア像、現代のマリア崇敬についても考察したいと思います。また、毎回コメント・シートを提出してもらって、受講生の関心や理解度を考慮して授業を進めます。	◎		○	
151308005	ヨーロッパ研究入門CⅠ(イギリス文学と芸術)	2単位	2年	安藤 聡	イギリス文学史の各時代を代表する作家とその主要作品を選び、毎時間原則として一作家一作品を採り上げ、可能な限り多様な角度から分析します。文学史上の必読作品を一通り網羅することよりも、各時代に典型的に現れた作品を鳥瞰することで、イギリス文学とイギリス文化史(特に絵画)の全体像を捉えることが目標です。取り上げる予定の作家と作品は以下のとおりですが、時勢や受講者の関心の所在に応じて変更することもあり得ます。	○			◎
151308006	ヨーロッパ研究入門CⅡ(イギリス文学と芸術)	2単位	2年	安藤 聡	英国の児童文学(特にファンタジー)の中から代表的な作品を選び、時代背景や文化的背景との関わりをも視野に入れつつ、その主題をさまざまな角度から分析します。英国には優れたファンタジー作品が非常に多いので、その中から特徴的な作品をいくつか抽出して、原則として毎時間一作品を取り上げて考察します。取り上げる作品は以下の通りですが、時勢や受講生の関心の所在に応じて変更することもあり得ます。		○		◎
151308007	ヨーロッパ研究入門DⅠ(フランス文学と芸術)	2単位	2年	大久保康明	文学には詩、小説、戯曲、随筆など様々なジャンルがあり、それぞれ読者に大きな感動や感化を与えてきました。しかし各々の作品が個々別々のものとして自然に人の心を動かす一方、読者の側が作品相互の間の影響関係を考えたり、親近性や異質性を検討したり、また作品の生成の舞台となった文学史の流れを知ったりすれば興味はさらに深まるでしょうし、知的なアプローチも可能になってきます。それは大学生となった皆さんが自分でものを考え、認識を深める契機にもなるはずですが、そうした前提を共有した上で、そのさらなる展開としてこの講義では、文学と隣接し文学を取りまき養ってきた他の芸術分野との関係に注目し、考察します。現代は多くのジャンルやメディアがそれぞれ強く自己主張しており、文学そのもの(特に文学史に登場するような古典的な作品)が一般の人々に及ぼすインパクトは以前より弱くなっている面もあるかもしれませんが、しかしそれなら、その状況をむしろ逆手に取って、音楽や芸能と個々の文学作品との関わりに注目して、より生き生きと文学作品に接しようとするのも有意義な方法ではないでしょうか。知性と感性とをともに発揮して、いくつかのフランス文学の作品と、それを触発した、あるいはそれに触発された芸術作品との繋がりを研究し、個々の作品へのより深い興味をよび覚ますのがこの講義のねらいです。		◎		○
151308008	ヨーロッパ研究入門DⅡ(フランス文学と芸術)	2単位	2年	大久保康明	授業のねらいは、前期のヨーロッパ研究入門DⅠ(フランス文学と芸術)と同じで、継続的内容です。ただし、前期のみ、後期のみ履修も可能です。		◎		○
151308009	ヨーロッパ研究入門EⅠ(ドイツ文学と芸術)	2単位	2年	原 研二	ドイツ・オーストリア・スイス・文化圏を中心に文化史上のポイントをおさえます。テーマの立て方、比較の仕方、考えをまとめていくやり方を共有します。1)キリストの顔を素材に、中世から近世の本質的転換を見る2)ルネサンス/カーニバル文学3)マニエリスム文化4)30年戦争5)牧歌文化運動—オペラ・宮廷文学・宮廷美術6)フランス革命の影響7)19世紀文化革新運動および時代順に中世から1800年頃まで、美術・パレエ・オペラを素材にしながら、時代のさまざまな見方を提供する。	◎			○

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
151308010	ヨーロッパ研究入門EⅡ(ドイツ文学と芸術)	2単位	2年	原 研二	今学期は19世紀、20世紀の文化史を扱う。とくに第1次世界大戦を予兆する芸術、破壊的オペラ、挑発的バレエを中心に、現代に至るモダンな潮流を概観する。	◎			○
151308011	ヨーロッパ文化研究AⅠ(地中海文明とヨーロッパ)	2単位	3・4年	貫井 一美	ギリシアに始まるヨーロッパ美術の特徴について学びます。地中海の文化がどのようにヨーロッパ文化に継承されているかに留意して、地中海世界のギリシア、ローマ、ビザンティン美術の特徴を概観し、その後、それらがヨーロッパのキリスト教美術やルネサンス以降の美術にどのような影響を与えたかを外観します。		◎	○	
151308012	ヨーロッパ文化研究AⅡ(地中海文明とヨーロッパ)	2単位	3・4年	貫井 一美	スペインの美術(主として絵画)の歴史を軸に、ヨーロッパとスペインの美術の相違点や共通点、影響関係を学ぶことを目的とする。中世から20世紀までのスペイン美術の代表的な芸術家とその作品を取り上げ、時代によって変わっていくスペインの美術を概観したい。		◎	○	
151308013	ヨーロッパ文化研究BⅠ(政治と経済)	2単位	3・4年	井上 淳	※履修登録前に必ずシラバスを一読すること。本授業は予習、発言・発表が求められると同時にmanabaを使用する。相当の作業量が求められることを承知の上で履修すること。※メディア等によく目にする「EU(ヨーロッパ連合)」は、現代ヨーロッパを理解するためにも、国際社会の動向ひいてはビジネス環境を理解するためにも、知らなくてはならない存在である。EUはヨーロッパ各国の政治経済はもちろん、アメリカや日本、途上国、国連など、他者にもかなりの影響を与えており、「知りませんでした」では済まされない。この授業はEUの基礎、とりわけEU発展の歴史を学びの対象とする。なぜ「統合」そして「EU」がヨーロッパに必要だったのか、EUは何をしてきたのか、といった、EUについての基礎的な理解を深める。第二次世界大戦直後、1950年代、60年代…と年代ごとにヨーロッパがどのような課題に直面し、そうした課題をどのように統合に結びつけたのかを理解してもらいたい。			○	◎
151308014	ヨーロッパ文化研究BⅡ(政治と経済)	2単位	3・4年	井上 淳	※履修登録前に必ずシラバスを一読すること。本授業は予習、発言・発表が求められると同時にmanabaを使用する。相当の作業量が求められることを承知の上で履修すること。※「ヨーロッパ文化研究BⅠ」では、EU(ヨーロッパ連合)発展の経緯に対する基礎的な理解を深めてきた。その知識を踏まえて、本講義ではテーマごとのEUの取り組みを学ぶ。EUがどのような原理のもと運営されているか、誰が何をどのように決めているのか、何がEUの仕事なのか、国とEUとで役割や仕事があつたらぬのか、統合と各国の多様性は矛盾しないのか、などといったトピックについて、なるべく多くのテーマに触れながら、現代ヨーロッパ情勢に対する理解を深めてもらいたいと考えている。文化研究BⅠで時系列的な理解を深め、本講義のBⅡでトピック別の理解を深めることにより、現代ヨーロッパ(EU)に対する理解に厚みをもたせることが、本講義の究極的な目標である。また、講義期間の中盤で欧州のエネルギー問題についての本を輪読し、日本と欧州のとらえ方を比較する。			○	◎
151308015	ヨーロッパ文化研究CⅠ(芸術と思想)	2単位	3・4年	稲垣 正久	フランスの小説のうち、傑作の誉れ高い作品を年代ごとに紹介していく授業です。作品が成立していく過程の社会的、歴史的背景に注目し、フランスの小説がいかに発展していったかを検証します。とはいえ、なるべく難解な理論や専門用語の使用を控え、受講生に「読書のよろこび」を感じてもらえるようにしたいと思います。	◎			○
151308016	ヨーロッパ文化研究CⅡ(芸術と思想)	2単位	3・4年	稲垣 正久	ラクロの『危険な関係』について講義します。文学作品、とくに小説を鑑賞する際の方法論にも言及し、どのように作品が読まれていくのかを『読者の自由』という観点から論じます。とはいえ、難解な理論や用語の使用はなるべく控えて、対象作品の魅力を受講者にじゅんぶんにと味わってもらい、「読書のよろこび」を感じてもらえるようにお話していきたいと思っています。	◎			○
151308017	イギリス文化研究Ⅰ(歴史と風土)	2単位	3・4年	安藤 聡	ローマ時代から現在までの、イングランドを中心とした英国史を概観します。各時代を満遍なく扱うのは不可能なので、以下の14の時代に焦点を当てて、文化的な背景を重視しつつ、現在の英国が形成された過程の理解に努めます。	○	◎		
151308018	イギリス文化研究Ⅱ(歴史と風土)	2単位	3・4年	安藤 聡	中世から現在までの英国庭園の歴史を、とくに文学や美術との関連を重視しながら概観することによって、比較文化論的な視点から(イタリア、フランス、オランダとの比較を通じて)英国文化の本質的な要素を浮き彫りにしたいと思います。本講義の結論を先に述べれば、英国文化のエッセンスを表わすキーワードは「不規則性」と「多様性」と「中庸」です。このことを、各時代の代表的な庭園と絵画、文学作品などの分析を通して論証します。	○	◎		
151308019	フランス文化研究Ⅰ(歴史と風土)	2単位	3・4年	武田 千夏	最近、ヨーロッパ史を個々の国民国家ではなく、ひとつのまとまりとして捉えるアプローチが主流となりつつあります。これは欧州連合(EU)の動きに連動していますが、この手法は決して新しいものではありません。19世紀のフランスの歴史学者(そして政治家)のフランク・ギゾーは『ヨーロッパ文明史』の名のもとに、すでに西欧諸国間の共通点を強調した歴史観を提示しました。逆説的ですが、欧州の一国について理解するためには、同時にその国民国家としての成り立ちについて知る必要もあります。フランスは、海を隔てたイギリス、また隣接するドイツ、イタリア、ベルギー、オランダなど異なる史的特徴を持っています。フランスは今日ヨーロッパの中でも出生率の高さで際立っていますが、それがなぜかと考えたとき、ヨーロッパではなくフランスに固有の歴史に遡らないと理解できません。このようにヨーロッパの諸国について理解する際、地方、国、ヨーロッパなどの複合的な視点で理解していかないとけないことが多々あります。授業では、周辺諸国の事情も視野に入れつつ、フランス史の主要な政治、社会、文化の流れ(ケルト、ガロローマ、中世フランス、絶対王政、フランス革命、そして今日のフランスをより直接的に形成した19、20世紀)をおおまかに掴む訓練をすると同時に、フランスの社会、政治、文化など多角的に取り扱います。授業は、教員の講義を中心に進め、同時に文献の購読、それについての議論も行います。さらに、意外に知られていない現代のフランスの素顔を紹介するためにDVD you tubeなどを使って映像もたくさん紹介します。グルメ、おしゃべり、きれいななどの画一的なイメージを乗り越えて、フランスの真の魅力を紹介できたらと思います。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい/到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎:特に関係する ○:関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
151308020	フランス文化研究Ⅱ(歴史と風土)	2単位	3・4年	武田 千夏	前期に引き続いて、ヨーロッパ史を視野に入れたフランス史を学習します。前期で学んだ基礎知識をもとに、より高度な内容の文献、論文などを読みます。また現代フランスについて書かれたエッセーなども取りあげます。後期の中心課題はエッセー作成です。これまでの学習に基づいて、学生は自分で選んだ一つのテーマに取り組みます。自分で資料を調べて、リサーチをして、回答発表を行います。そして最終的に自分の考えをまとめてエッセーを完成させます。エッセーを書くためのスキルの学習も重視します。一年の最後にはそのテーマの豆エクスパートになってもらいます。		○		◎
151308021	ドイツ文化研究Ⅰ(歴史と風土)	2単位	3・4年	西野 路代	みなさんはドイツという国にどのようなイメージを抱いているでしょうか。日本にとっては西洋文化の輸入先として戦前から影響力のある国だといえるでしょう。また、いまやEUを牽引し、世界の大国としての存在感も放っています。しかし、統一国家としての歴史は浅く、ヨーロッパの中央に位置するという地理的条件もあり、ときにヨーロッパの勢力を引き寄せる引力の場として、またときにヨーロッパを分断するものとして、「統合」と「分断」の歴史を繰り返してきた国でもあるのです。近年、世界情勢が揺らぎつつありますが、ドイツ史の中には現代を考える上で重要な問題性がいくつも含まれています。この授業では特にドイツ現代史に焦点をあてますが、前期はドイツ史の始まりを規定するところからスタートし、ドイツ史が第二次世界大戦という惨禍に飲み込まれていく過程を見ていきたいと思います。	○	◎		
151308022	ドイツ文化研究Ⅱ(歴史と風土)	2単位	3・4年	西野 路代	前期は第二次世界大戦までの過程を概観しましたが、後期は戦後ドイツ史に焦点をあてます。第二次世界大戦の終結から、冷戦のもと、東西ドイツ分断時代、ベルリンの壁の建設、そしてベルリンの壁の崩壊、再統一と、ドイツにおいては戦後も激動の歴史が続きます。ドイツが置かれたこの戦後の特殊な状況について時間を追いますが、学んでいきたいと思います。戦後の困難な状況に置かれるいっぽう、ドイツは「過去の克服」という形で第二次世界大戦の戦後処理に取り組んできました。この克服すべき過去とはドイツ人の精神性にとってどのような意味をもっていたのでしょうか。これを考えていくこともこの時間のひとつのテーマとして設定したいと思います。政治や社会の取り組みという観点からだけでなく、文学や芸術といった個人の内面の問題からもこの「過去の克服」について考えていくつもりです。第二次世界大戦を歴史のひとつの基点とし、そこへ流れ込む過程を前期は扱いましたが、後期はそこから展開し現在にいたる歴史を見ていきたいと思います。	○	◎		
151308023	ロシア文化研究Ⅰ(歴史と風土)	2単位	3・4年	齋藤 毅	後期の「ロシア文化研究Ⅱ」と合わせて1年間で、ロシア帝国、ソヴィエト連邦、そして現在のロシア連邦の歴史をたどりながら、今日もなお「ユーラシア国家」として、国際社会の中で重要な位置を占めているロシアという国の風土がどのように形成されてきたのかを考えます。ロシアのみならず、西欧、東欧、カフカス・中央アジアなどの旧ソ連地域、中国をはじめとするアジア、そして私たちが暮らす日本などとの関わりにも、つねに目を配りますので、この授業には「ロシアを中心に見た世界史入門」という側面もあります。ポイントとなるテーマは次の通りです。(1)ヨーロッパとアジアの間にもたがえる。ロシアの「ユーラシア国家」としての性格は、どのように形成されてきたのか。(前期の主要テーマ:9世紀から20世紀までのキエフ、モスクワ、ペテルブルグ時代)(2)世界初の「社会主義国家」であるソヴィエト連邦は、どのような背景から生まれ、どのように崩壊していったのか。(後期の主要テーマ:20世紀—21世紀)(3)連邦崩壊後、現在のロシア連邦は、国際社会の中でどのようなポジションにあるのか。ロシアの視点から見た場合、これからの世界はどのように変わってゆくのか。(4)私たちの国、日本は、これまでの歴史においてロシアとどのような関係を有してきたのか。これらどのような関係を築いてゆけばよいか。最終的に、ロシアに関するニュース、新聞記事、専門書などを自力で理解できる程度の、ロシアについての基本的知識を自分のものにすることを目標とします。	○	◎		
151308024	ロシア文化研究Ⅱ(歴史と風土)	2単位	3・4年	齋藤 毅	前期の「ロシア文化研究Ⅰ」の続きの授業です。前期の授業を受講していることを前提に授業を進めます。詳しくは「ロシア文化研究Ⅰ」の欄をご覧ください。	○	◎		
150008096	現代中国語基礎セミナーAⅠ(理解)	1単位	2・3・4年	石川 照子	初級の中国語以上の学習を終了した学生を対象とするクラスである。辞書を引きながら、現代中国に関するさまざまなテーマの文章を学んでいく。読解力の養成を中心に、録音テープなどを用いた音声の反復練習も行う。	○	◎		
150008096	現代中国語基礎セミナーAⅠ(理解)	1単位	2・3・4年	佐藤 実	中国語の基礎を確実にすべく、いろいろな文章にふれてもらい、中国語や中国文化の理解をめざします。	○	◎		
150008097	現代中国語基礎セミナーAⅡ(理解)	1単位	2・3・4年	石川 照子	中国語の一年間の初級学習と、半年の中級学習を終了した学生を対象とするクラスである。辞書を引きながら、現代中国に関するさまざまなテーマの文章を学んでいく。読解力の養成を中心に、録音テープなどを用いた音声の反復練習も行う。	○	◎		
150008097	現代中国語基礎セミナーAⅡ(理解)	1単位	2・3・4年	佐藤 実	中国語の基礎を確実にすべく、いろいろな文章にふれてもらい、中国語や中国文化の理解をめざします。	○	◎		
150008098	現代中国語基礎セミナーBⅠ(表現)	1単位	2・3・4年	銭 国紅	現在、中国語を使って人と人との実践的なコミュニケーションができる人材が切実に求められています。このセミナーは言語習得の目的の一つをコミュニケーションに置き、単なる書物上の語学ではなく、人との交流に使える外国語の習得を目的にします。本セミナーは中国語のコミュニケーションの基礎を学んだ学生が次の段階に進むために設定されたものである。授業は中国語の実力をアップして行ける基礎を築くことを第一の目的としていますが、さらに中国語でコミュニケーションする楽しさをも味わってほしいと考えています。		◎		○
150008098	現代中国語基礎セミナーBⅠ(表現)	1単位	2・3・4年	張 玉萍	発音に注意しながら、中国語会話を楽しく進めていく。読み、書き、聞き取りなどをペアやグループなど様々な形で練習することを通して、中国語でちゃんと自己表現できるようにする。同時にテキストの内容に合わせて中国の歴史、文化、風俗習慣などを日本と比較しながら紹介し、中国および中国語に対する理解を深めていく。		◎		○

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008099	現代中国語基礎セミナーB II (表現)	1単位	2・3・4年	銭 国紅	現在、中国語を使って人と人との実践的なコミュニケーションができる人材が切実に求められています。このセミナーは言語習得の目的の一つをコミュニケーションに置き、単なる書物の上の語学ではなく、人との交流に使える外国語の習得を目的にします。本セミナーは中国語のコミュニケーションの基礎を学んだ学生が次の段階に進むために設定されたものである。授業は中国語の実力をアップして行ける基礎を築くことを第一の目的としていますが、さらに中国語でコミュニケーションする楽しさをも味わってもらいたいと考えています。		◎		○
150008099	現代中国語基礎セミナーB II (表現)	1単位	2・3・4年	張 玉萍	発音に注意しながら、中国語会話を楽しく進めていく。読み、書き、聞き取りなどをペアやグループなど様々な形で練習することを通して、中国語できちんと自己表現できるようにする。同時にテキストの内容に合わせて中国の歴史、文化、風俗習慣などを日本と比較しながら紹介し、中国および中国語に対する理解を深めていく。		◎		○
150008100	現代中国語基礎セミナーC I (総合)	1単位	2・3・4年	櫻井 幸江	本授業では、初級中国語の基礎の上に、発音・文法・講読・聞き取りの総合的な力を養うことを目指します。プリント教材(発音記号+ピンインのついていない)を使用し、中国語の映像の一部を観ます。前期は唐代伝奇「聶隱娘」の口語訳の文章を講読してから、参考にアニメのセリフの一部を読みます。進度は学生の理解度によって調整します。	○	◎		
150008101	現代中国語基礎セミナーC II (総合)	1単位	2・3・4年	櫻井 幸江	前期に引き続き、初級中国語の基礎の上に、発音・文法・講読・聞き取りの総合的な力を養うことを目指します。プリント教材(発音記号+ピンインのついていない)を使用し、中国語の映像の一部を観ます。後期は、「聶隱娘」口語訳の続きを講読してから、参考に映画のセリフの一部を読んでいきます。進度は学生の理解度によって調整します。	○	◎		
150008102	現代中国語中級セミナー I	1単位	3・4年	趙 怡	「映像を通して教室で中国を探索」というキャッチフレーズの教科書(DVD付き)を使います。著者が自ら上海、北京、西安、そして四川省や雲南省などで撮影したホットな映像を見ながら、会話文と読解文を学習します。美しい映像と美しいナレーションを堪能しながら、聴解練習、会話練習をこなし、時には字幕を見ながら自らナレーターにチャレンジすることもできます。無料ダウンロードできる音声用ファイルやDVDを利用すれば、自宅での学習も一段と楽しくなります。こうして一年間の学習を通して、中国語検定試験3級またはHSK3~4級相当な語学力を身につけると同時に、中国の文化や社会事情もより理解してもらいたいと考えています。		◎		○
150008103	現代中国語中級セミナー II	1単位	3・4年	趙 怡	「映像を通して教室で中国を探索」というキャッチフレーズの教科書(DVD付き)を使います。著者が自ら上海、北京、西安、そして四川省や雲南省などで撮影したホットな映像を見ながら、会話文と読解文を学習します。美しい映像と美しいナレーションを堪能しながら、聴解練習、会話練習をこなし、時には字幕を見ながら自らナレーターにチャレンジすることもできます。無料ダウンロードできる音声用ファイルやDVDを利用すれば、自宅での学習も一段と楽しくなります。こうして一年間の学習を通して、中国語検定試験3級またはHSK3~4級相当な語学力を身につけると同時に、中国の文化や社会事情もより理解してもらいたいと考えています。		◎		○
150008104	現代英語中級セミナーA I (理解)	1単位	2・3・4年	井上 淳	※履修登録前に必ずシラバスを一読すること。本授業はmanabaを使って予習や小テストを頻繁に行うため、それ相応の努力がないと続かない。2限開講だが、交通機関の遅延を想定し、遅刻で不利にならないよう対処すること。※本講座は、まとまった分量の英語をある程度の速度と正確性をもって読み取る訓練をおこなうこと、イギリスについて現地語(英語)で理解してみることを目指している。週1回の講義内ではあるが、時間を区切って言い訳のきかない状態で訓練を積み重ねる。最終的には、EU(European Union)の公式サイト http://europa.eu/about-eu/eu-history/index_en.htm をおかつ1段落あたり3分以内に内容について理解し、日本語で説明できるようになることを目指す。したがって、履修者の水準は、「辞書と時間さえ使えば上のwebページに書かれていることを訳すことができる(基本的な文法や熟語についてはおさえられている)」というレベルを想定している(それ以下、あるいはそれ以上の水準の学生には本講義の内容は向きません)。なお、毎回出席管理システムによる出席をとり、「manaba」を使って予習や小テストをおこなう。	○	◎		
150008104	現代英語中級セミナーA I (理解)	1単位	2・3・4年	江頭 浩樹	この授業では、英文読解及び資格英語試験に必要な文法・構文の知識の再確認を行う。文法の基礎の部分から応用までを扱う。ただし皆さんが大学入学までに学んできた文法の見方とは、異なった見方で既習の文法を見直していく。「もう一度英文法を基礎から見直したい。」「今までなんとなく文法問題が解けたり、英文を読めたりしていたけど、確信をもって文法問題が解けたり、英文を読めるようにしたい」という学生にお勧めの授業である。		◎		○
150008104	現代英語中級セミナーA I (理解)	1単位	2・3・4年	久保 忠行	授業のねらい 英語で書かれた初学者向けのテキスト(International Migration: A Very Short Introduction, Oxford University Press, 2007)の輪読をおして、英語文献の読解力とグローバル時代の移民についての知識を涵養する。到達目標 到達目標は、当該分野にかんする英語文献や資料を抵抗なく読めるようになること。文献の性質上、ある程度の基礎知識があれば読解は容易だが、なければ難しいことが予想される。この文献読解をおして国際移民にかんする基礎知識を得ることも到達目標となる。	○	◎		
150008104	現代英語中級セミナーA I (理解)	1単位	2・3・4年	武田 千夏	1: 英語のテキストを読んで、大意を読み取る訓練を行う。2: ALC教材を使って毎週ヒヤリングの訓練を行う。一國の国民のアイデンティティーがどのように形成されるのかについて、フランスとアメリカの例から考えてみたいと思います。取り扱うテキストの内容は、フランス人のアメリカおよびアメリカ人についてのビジョンです。フランスとアメリカの相互イメージについての理解を深めるためにいくつか映画もみませます。予習が欠かせません。	○	◎		
150008104	現代英語中級セミナーA I (理解)	1単位	2・3・4年	渡邊 顕彦	ディズニーアニメの古典的作品『白雪姫』の字幕抜きの鑑賞および脚本の講読と、ウォルト・ディズニーの英語伝記の講読を通して現代アメリカ英語および文化の理解を促進します。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008105	現代英語中級セミナーAⅡ (理解)	1単位	2・3・4年	井上 淳	※履修登録前に必ずシラバスを一読すること。本授業はmanabaを使って予習や小テストを頻繁に行うため、それ相応の努力がないと続かない。2限開講だが、交通機関の遅延を想定し、遅刻で不利にならないよう対処すること。※本講座は、分量ある英語をある程度の速度と正確性をもって読み取る訓練をおこなうこと。アメリカについて現地語(英語)で理解してみようとしている。週1回の講義内ではあるが、時間を区切って言い訳のきかない状態で訓練を積み重ねる。最終的には、EU(European Union)の公式サイト http://europa.eu/about-eu/eu-history/index_en.htm を抵抗なく読め、なおかつ1段落あたり3分以内に内容について理解し、日本語で説明できるようになることを目指す。したがって、履修者の水準は、「辞書と時間さえ使えば上のwebページに書かれていることを訳すことができる(基本的な文法や熟語についてはおさえられている)」というレベルを想定している(それ以下、あるいはそれ以上の水準の学生には本講義の内容は向きません)。なお、毎回出席管理システムによる出席をとる。また、予習確認の小テストでmanabaを使用する。	○	◎		
150008105	現代英語中級セミナーAⅡ (理解)	1単位	2・3・4年	江頭 浩樹	この授業では、英文読解及び資格英語試験に必要な文法・構文の知識の再確認を行う。文法の基礎の部分から応用までを扱う。ただし皆さんが大学入学までに学んできた文法の見方は、異なった見方で既習の文法を見直し、「もう一度英文法を基礎から見直したい。」「今までなんとなく文法問題が解けたり、英文を読めたりしていたけど、確信をもって文法問題が解けたり、英文を読めるようにしたい」という学生にお勧めの授業である。		◎		○
150008105	現代英語中級セミナーAⅡ (理解)	1単位	2・3・4年	久保 忠行	前期に引き続き、文献を購読する。かならず前期科目と継続して受講すること。授業のねらい 英語で書かれた初学者向けのテキスト(International Migration: A Very Short Introduction. Oxford University Press, 2007)の輪読をとおして、英語文献の読解力とグローバル時代の移民についての知識を涵養する。到達目標 到達目標は、当該分野にかんする英語文献や資料を抵抗なく読めるようになること。文献の性質上、ある程度の基礎知識があれば読解は容易だが、なければ難しいことが予想される。この文献購読をとおして国際移民にかんする基礎知識を得ることも到達目標となる。	○	◎		
150008105	現代英語中級セミナーAⅡ (理解)	1単位	2・3・4年	武田 千夏	前期に引き続き、購読とヒヤリングの訓練を行う。(1)英語のテキストを読んで、大意を読み取る訓練を行う。(2)ALC教材を使って毎週ヒヤリングの訓練を行う。前期に続いてテキストを読み進めて、冷戦の文脈におけるフランス人のアメリカおよびアメリカ人についてのパーセプションについて理解します。さらに、テキストを離れて、まわりに存在する題材(お菓子、ケーキ、写真、映画などなど)を取りあげてもらって、米仏について比較してもらいます。また前期同様、映画を見ながら米仏の相互イメージについて学習します。英語の難易度は中級以上。毎週最低一時間の予習が必要です。	○	◎		
150008105	現代英語中級セミナーAⅡ (理解)	1単位	2・3・4年	渡邊 顕彦	ディズニー映画『魔法にかけられて』を字幕無しで観て、同映画の英語小説版も読むことを通じてアメリカ口語の理解を深めます。	○	◎		
150008106	現代英語中級セミナーBⅠ (表現)	1単位	2・3・4年	渡邊 顕彦	イギリスの中高レベルを想定して作られたラテン語初級教科書を使い、英語を含むいわゆるインド・ヨーロッパ諸語文法の基礎を学びます。また、同教科書の古代ローマ文化の解説を読みつつ、その感想を英語で書いていきます。		◎		○
150008106	現代英語中級セミナーBⅠ (表現)	1単位	2・3・4年	JOHNSON,G.S.	This course is intended to integrate and extend competencies in listening and speaking. This is an advanced course for students who intend to use English for research and personal and professional communication. We will use a textbook, articles, songs, films, etc. to practice understanding other cultures in English. Pair, group, and class activities such as drills, discussions, presentations, letter and essay writing, texting, etc., will be used to create situations for practice and revision of communication skills. Listening comprehension and shadowing is also planned. Be sure to study each lesson before it is covered in class. Students should expect to work hard with the goal of improving communication skills and gaining self-confidence in English. The class will be conducted entirely in English.		◎		○
150008106	現代英語中級セミナーBⅠ (表現)	1単位	2・3・4年	エロイス ピアソン 浜谷	There are two goals for this course: one is for the students to improve their English skills (all four skills: listening, writing, reading and speaking) through films. The second goal is to learn about film and to watch and tell others about favorite films. Everything in the class will be in English.(1)♦Weekly in class: students will view a unit of a film with listening activities and write a summary (Spring, Casablanca; Fall, Roman Holiday)(2)♦Several times during each semester, at home students will read about the history of film, film-making and the Oscar award.(3)♦Once each semester, students will watch an English language film at home and write a brief review of the film (summary & analysis)(4)♦Once each semester, each student will give an oral presentation on an English language film they have watched during the semester. There will be homework. The homework is important.		◎		○

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008106	現代英語中級セミナーB I (表現)	1単位	2・3・4年	MIDDLETON,J.P.	The aim of this class is to expose the second year students to a wide range of English language communicative expression. This class is intended for students who have achieved an intermediate level of English. The target or goal of the class is to assist the students in their efforts to improve their English skills, especially in the skill areas of listening-speaking and to some degree with reading comprehension. Naturally as language is reflective of culture, cross-cultural understanding and enjoyment of communicating in English, are important elements of the course. The primary focus of this course is to give the students a chance to experience English expression in terms of oral-aural communicative skills. The students will have ample opportunity to express themselves in numerous and varied situational settings. New lesson material will be taught to the students by presentation to the whole group by the teacher. Student practice will take place in large measure in small groups and between study partners. Development of natural conversational style and appropriate usage of high frequency grammar structures and idiomatic expressions will be a major focus. In the first term the following skills will be the primary focus: listening and speaking, pronunciation and intonation, and vocabulary development. In the second term all of the previously mentioned areas of study will continue at a more advanced level. A certain amount of written work will take place by means of an activity workbook. Such written activity will consist of exercises which are intended to reinforce the grammar points, vocabulary, and expressions which are at the time under study.		◎		○
150008107	現代英語中級セミナーB II (表現)	1単位	2・3・4年	渡邊 顕彦	前期にひきつづき、英語を含むインド・ヨーロッパ諸語文法の基礎を学びつつ、古代ローマ文化について英文解説を読み、感想を書いていきます。		◎		○
150008107	現代英語中級セミナーB II (表現)	1単位	2・3・4年	JOHNSON,G.S.	This course is intended to integrate and extend competencies in listening and speaking. This is an advanced course for students who intend to use English for research and personal and professional communication. We will use a textbook, articles, songs, films, etc. to practice understanding other cultures in English. Pair, group, and class activities such as drills, discussions, presentations, letter and essay writing, texting, etc., will be used to create situations for practice and revision of communication skills. Listening comprehension and shadowing is also planned. Be sure to study each lesson before it is covered in class. Students should expect to work hard with the goal of improving communication skills and gaining self-confidence in English. The class will be conducted entirely in English.		◎		○
150008107	現代英語中級セミナーB II (表現)	1単位	2・3・4年	エロイス ビアソン 浜谷	There are two goals for this course: one is for the students to improve their English skills (all four skills: listening, writing, reading and speaking) through films. The second goal is to learn about film and to watch and tell others about favorite films. Everything in the class will be in English.(1)♦Weekly in class: students will view a unit of a film with listening activities and write a summary (Spring, Casablanca; Fall, Roman Holiday)(2)♦Several times during each semester, at home students will read about the history of film, film-making and the Oscar award.(3)♦Once each semester, students will watch an English language film at home and write a brief review of the film (summary & analysis).(4)♦Once each semester, each student will give an oral presentation on an English language film they have watched during the semester. There will be homework. The homework is important.		◎		○
150008107	現代英語中級セミナーB II (表現)	1単位	2・3・4年	MIDDLETON,J.P.	The aim of this second term class class is to continue to expose the second, third and fourth year students to a wide range of English language communicative expression. The target or goal of the second term class is to continue to assist the students in their efforts to improve their English skills, especially in the skill areas of listening-speaking and to some degree with reading comprehension. Naturally as language is reflective of culture, cross-cultural understanding and enjoyment of communicating in English, are important elements of the course. The primary focus of this course is to give the students a chance to experience English expression in terms of oral-aural communicative skills. The students will have ample opportunity to express themselves in numerous and varied situational settings. New lesson material will be taught to the students by presentation to the whole group by the teacher. Student practice will take place in large measure in small groups and between study partners. Development of natural conversational style and appropriate usage of high frequency grammar structures and idiomatic expressions will be a major focus. In the second term the following skills will continue to be the primary focus: listening and speaking, pronunciation and intonation, and vocabulary development. It can be seen that in the second term, all of the previously mentioned areas of study will continue at a more advanced level. A certain amount of written work will take place by means of an activity workbook. Such written activity will consist of exercises which are intended to reinforce the grammar points, vocabulary, and expressions which are at the time under study.		◎		○
150008108	現代英語中級セミナーC I (総合)	1単位	2・3・4年	安藤 聡	この科目は「総合」ですが、英語の四技能を限られた授業時間で満遍なく扱うことは不可能なので、特に読解力を集中的に訓練することにします。最初に「読むための文法」として必要な項目を、実際にテキストを読み進めながら整理し、その後は精読と多読に努めます。新聞や雑誌、あるいは初歩的な専門書などを英語で読める程度の読解力の習得を目標とします。今年度は日英両国で研究者、エッセイストとして活躍する John Dougill の『Oxford: A Personal Account』をテキストとして選びました。オクスフォードという「特殊な」環境での学生生活の回想を通して文学、歴史、哲学、そして比較文化について学べます。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008108	現代英語中級セミナーC I (総合)	1単位	2・3・4年	上野 未央	英文読解とリスニングを組み合わせた授業で、総合的な英語力向上を目指します。英文読解に使う教材は、イングランド王ヘンリ8世とその妻たちをテーマにした本です。一つ一つの言葉を大切に、丁寧に読みすすめていきます。英文の構造を理解することも重視します。舞台となる16世紀イギリスの文化について理解を深めるために、教科書以外にも英文のプリントを配布する予定です。授業の後半には、リスニングを行います。教科書はTOEICスコア500を目指す人向けで、比較的易しい内容です。TOEICを受けたことがない人でも無理なく学習ができるでしょう。TOEICスコア500以上を取っている人も、あらかじめTOEICの出題傾向を整理することで着実なスコアアップを目指します。	○	◎		
150008108	現代英語中級セミナーC I (総合)	1単位	2・3・4年	高橋 洋平	本科目の第一目標は聴解力のさらなる養成です。主教材は情報処理室のパソコンに入っているCALL教材「Listen to me」です。相当の時間と集中力を費やしてこれに取り組んでもらいます。自発的な学習となるので、個々人でペースが異なります。また多くの学生が受験を検討しているTOEICの対策もテキストを用いて行います。問題数をこなすことで問題形式に慣れることを目指しますが、文法事項の説明も時間の許す限り行うつもりです。	○	◎		
150008108	現代英語中級セミナーC I (総合)	1単位	2・3・4年	行田 勇	CALLの英語(中級) 本授業では、「三ラウンド・システム理論」という学習の効率化を目指して日本人学習者のために開発された科学的学習理論に従って作成されたCALL(Computer-Assisted Language Learning)教材を用いて、英語のリスニング能力の向上を目指す。三ラウンド・システム理論は、伝統的学習法に比べて約10倍の学習効果が実証されている。(初級レベルの学習者の場合、正味約20時間の学習時間でTOEICのスコアが約100点上昇)また、初・中級レベルの学習者には特に効果的であるといわれているので、「英語をやり直そう」と考えている人には最適な学習法といえる。本授業を通じて自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化することを目的とする。	○	◎		
150008108	現代英語中級セミナーC I (総合)	1単位	2・3・4年	JOHNSON,G.S.	This course is for students who have taken or are enrolled in 現代英語中級セミナーA or B but will use more advanced material with higher expectations in terms of student motivation and ability. It is designed to integrate and extend competencies in reading, writing, listening, and speaking. This is an advanced course for students who intend to use English for research and personal and professional communication. We will use printed and video material to practice understanding other cultures in English with the general theme of workplace English. Pair, group, and class activities such as discussions, presentations, letter and essay writing, texting, etc., will be used to create situations for practice and revision of communication skills. Listening comprehension and shadowing is also planned. Be sure to study each lesson before it is covered in class. Students should expect to work hard with the goal of improving communication skills and gaining self-confidence in English. The class will be conducted entirely in English.			◎	○
150008109	現代英語中級セミナーC II (総合)	1単位	2・3・4年	安藤 聡	前期に引き続き読むための文法、著者との対話などに留意してテキストを読み進めます。また、後期はパラグラフ・リーディングの初歩的な演習を行います。予定通りの頁数を毎回読むと、12回目あたりで教科書を読み終えることになるので、それ以後は印刷物を配布して授業を進めます。	○	◎		
150008109	現代英語中級セミナーC II (総合)	1単位	2・3・4年	上野 未央	英文読解とリスニングを組み合わせた授業で、総合的な英語力向上を目指します。英文読解に使う教材は、前期に引き続いて、イングランド王ヘンリ8世とその妻たちをテーマにした本です。その後半を読んでいきます。一つ一つの言葉を大切に、丁寧に読みすすめていきます。16世紀イギリスの文化について理解を深めるために、教科書以外にも英文のプリントを配布する予定です。授業の後半では、リスニングを行います。教科書はTOEICスコア500を目指す人向けで、比較的易しい内容です。TOEICを受けたことがない人でも無理なく学習ができるでしょう。TOEICスコア500以上を取っている人も、あらかじめTOEICの出題傾向を整理することで着実なスコアアップを目指します。	○	◎		
150008109	現代英語中級セミナーC II (総合)	1単位	2・3・4年	高橋 洋平	本科目の第一目標は聴解力のさらなる養成です。主教材は情報処理室のパソコンに入っているCALL教材「Listen to me」です。相当の時間と集中力を費やしてこれに取り組んでもらいます。自発的な学習となるので、個々人でペースが異なります。また多くの学生が受験を検討しているTOEICの対策もテキストを用いて行います。問題数をこなすことで問題形式に慣れることを目指しますが、文法事項の説明も時間の許す限り行うつもりです。	○	◎		
150008109	現代英語中級セミナーC II (総合)	1単位	2・3・4年	行田 勇	CALLの英語(中級) 本授業では、「三ラウンド・システム理論」という学習の効率化を目指して日本人学習者のために開発された科学的学習理論に従って作成されたCALL(Computer-Assisted Language Learning)教材を用いて、英語のリスニング能力の向上を目指す。三ラウンド・システム理論は、伝統的学習法に比べて約10倍の学習効果が実証されている。(初級レベルの学習者の場合、正味約20時間の学習時間でTOEICのスコアが約100点上昇)また、初・中級レベルの学習者には特に効果的であるといわれているので、「英語をやり直そう」と考えている人には最適な学習法といえる。本授業を通じて自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化することを目的とする。	○	◎		
150008109	現代英語中級セミナーC II (総合)	1単位	2・3・4年	JOHNSON,G.S.	This course is for students who have taken or are enrolled in 現代英語中級セミナーA or B but will use more advanced material with higher expectations in terms of student motivation and ability. It is intended to integrate and extend competencies in reading, writing, listening, and speaking. This is an advanced course for students who intend to use English for research and personal and professional communication. We will use printed and video material to practice understanding other cultures in English with the general theme of workplace English. Pair, group, and class activities such as discussions, presentations, letter and essay writing, texting, etc., will be used to create situations for practice and revision of communication skills. Listening comprehension and shadowing is also planned. Be sure to study each lesson before it is covered in class. Students should expect to work hard with the goal of improving communication skills and gaining self-confidence in English. The class will be conducted entirely in English.			◎	○

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008110	現代英語上級セミナー I	1単位	3・4年	安藤 聡	日本人学習者用の教科書ではなく、英語圏で一般読者向けに出版されているペーパーバックを読みます。今年度は英国で様々な分野を代表する著名人が「イングランドを象徴するアイコン」について書いた短いエッセイを集めた「Icons of England」をテキストとして選びました。チャールズ皇太子による序文に始まり、小説家・批評家のデイヴィッド・ロジャ、喜劇俳優のマイケル・ペイリンとテリー・ジョウンス(いずれもモンティ・パイソンのメンバー)、デザイナーのマーガレット・ハウエル、ロック歌手・ギタリストのエリック・クラプトンなど、多様な執筆者の文章に触れることが出来ます。最初の数回で「読むための文法」の基本事項を再確認しながら精読し、その後はパラグラフの要点を読み取る練習をしつつ、多読に努めます。英語的な発想や英語の背景にある英国(特にイングランド)文化への理解を深めることをも目標とします。	○	◎		
150008110	現代英語上級セミナー I	1単位	3・4年	上野 未央	リスニングとリーディングを中心に授業を行い、英語のニュースを見たときに、その内容がおおまかに理解できるようになることを目指します。教科書は、BBCで放送されたニュース映像を使ったものです。授業では、映像を見ながら聞きとりを行います。その後でニュースの内容を詳しく読んでいきます。ニュースを通して、ニュースは現代イギリスの社会・文化についても学んでもらいたいと思います。また、授業で映像を理解するには、基本的な文法事項をおさえておくことが大切です。そのため、この授業では、TOEICの問題集も教科書として利用します。TOEICの問題集は少しずつ(毎回2ページずつ)進めていく予定です。また、ポキャブラリーの定着をはかるため、毎回10分間のポキャブラリー・テストを行います。	○	◎		
150008110	現代英語上級セミナー I	1単位	3・4年	行田 勇	・CALLの英語(上級)・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とする。・言語を習得するためには、当然のことながら、その言語にできるだけ多く触れる必要がある。ある調査によると、米国の子供は6歳になるまでに約1万7千時間、18歳になるまでには約5万時間も英語を聞いているらしい。それに対して、日本人の英語学習者が中・高の6年間で英語そのものに触れているのは、1千時間にも満たないと推定されている。つまり、日本人が学校で受ける英語教育では、母語話者の実に1/25~1/50の時間しか生の英語に触れていないのだ。このギャップを少しでも埋めるために、本授業ではできるだけたくさん音声英語に触れてもらう。・とはいっても、ただ単に何度も繰り返し長時間聞くだけでは英語力はつかない。適切な学習方法によって学ばなければならない。しかも、英語力を身につけるということは、険しい高い山を一步一步登っていくようなもので、「たったの1ヶ月でネイティブ並の英語力」などということはいえない。ところが、科学的な学習方法に従えば、その高い山を大幅に低くして、学習時間を大幅に短縮することは不可能なことではない。・本授業では、指導の効率化を目指して日本人学習者のために開発された「ミラウンド・システム理論」という学習法に従って、英語のリスニング能力の向上を目指す。	○	◎		
150008110	現代英語上級セミナー I	1単位	3・4年	江頭 浩樹	この授業では、英文の読解精読を行います。用いる題材はNewsweekやTimeの記事を用います。また、英文の精読と同時に、「読解のための英文法」の確認及び「読解のための構文」の確認を行います。		◎		○
150008111	現代英語上級セミナー II	1単位	3・4年	安藤 聡	前期に引き続き、パラグラフ・リーディングの演習を通して多読に努めます。最終的な目標は辞書がなくても読めるようになることと、読むことを楽しめるようになることです。英語で読んでいることを意識せずに読めるようになります。	○	◎		
150008111	現代英語上級セミナー II	1単位	3・4年	上野 未央	リスニングとリーディングを中心に授業を行い、英語のニュースを見たときに、その内容がおおまかに理解できるようになることを目指します。教科書は、BBCで放送されたニュース映像を使ったものです。授業では、映像を見ながら聞きとりを行います。その後でニュースの内容を詳しく読んでいきます。また、ニュース映像から見えてくるイギリス文化について、さらに詳しく学ぶために、教科書の内容を補足し、理解を深めるためのプリントも取り入れる予定です。また、TOEICの問題集を利用して、長文読解のコツを学びます。さらに、ポキャブラリーを増やすために、毎回10分間のポキャブラリー・テストを行います。	○	◎		
150008111	現代英語上級セミナー II	1単位	3・4年	行田 勇	・CALLの英語(上級)・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とする。・言語を習得するためには、当然のことながら、その言語にできるだけ多く触れる必要がある。ある調査によると、米国の子供は6歳になるまでに約1万7千時間、18歳になるまでには約5万時間も英語を聞いているらしい。それに対して、日本人の英語学習者が中・高の6年間で英語そのものに触れているのは、1千時間にも満たないと推定されている。つまり、日本人が学校で受ける英語教育では、母語話者の実に1/25~1/50の時間しか生の英語に触れていないのだ。このギャップを少しでも埋めるために、本授業ではできるだけたくさん音声英語に触れてもらう。・とはいっても、ただ単に何度も繰り返し長時間聞くだけでは英語力はつかない。適切な学習方法によって学ばなければならない。しかも、英語力を身につけるということは、険しい高い山を一步一步登っていくようなもので、「たったの1ヶ月でネイティブ並の英語力」などということはいえない。ところが、科学的な学習方法に従えば、その高い山を大幅に低くして、学習時間を大幅に短縮することは不可能なことではない。・本授業では、指導の効率化を目指して日本人学習者のために開発された「ミラウンド・システム理論」という学習法に従って、英語のリスニング能力の向上を目指す。	○	◎		
150008111	現代英語上級セミナー II	1単位	3・4年	江頭 浩樹	この授業では、英文の読解精読を行います。用いる題材はNewsweekやTimeの記事を用います。また、英文の精読と同時に、「読解のための英文法」の確認及び「読解のための構文」の確認を行います。		◎		○
150008112	現代フランス語基礎セミナーA I (理解)	1単位	2・3・4年	谷口 博史	この授業の目標はいうまでもなくフランス語の理解を深めることである。しかし、語学の授業の場合でいう理解とは、単に文法や仕組みを納得することを意味するのではなく、その言語をより身近に感じるようになることである。どんな言語であれ、それを学び始める当初は、よそよそしい姿をしている。このよそよそしさを取り除くことが、理解するということなのである。さまざまなアプローチの仕方や方法があるが、この授業では、基礎的なコミュニケーション能力の構築という観点から、フランス語の理解を深めていきたいと思う。そのためには、たとえば、動詞の活用を覚える場合でも、すべてを完全に覚えることが理想であるとはいってもないことだが、やはり初心者にとってはなかなか難しい。したがって、まず何よりも自分を中心に考えて、1人称を優先して覚えていくという具合にすすめていく。つまり、すでに学んだフランス語の知識を復習し再確認しながら、身近なところ、つまり自分を中心にして再構築していくことによって、より確実なものにしていくことを目指す。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎:特に関係する ○:関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008112	現代フランス語基礎セミナーA I (理解)	1単位	2・3・4年	松井美知子	このクラスはフランス語をすくなくとも1年学習した学生さんを対象とし、フランス印象派の画家、クロード・モネの生涯と絵画について書かれた、子供向けの絵本からテキストを選んで読んでいきます。初級文法を復習しながら、中級へと進み、まとまった内容のフランス語の文章を読みこなせるようになることを目的とします。子供向けの比較的平易なテキストですが、外国人にむけたものではないので、難しい点は注などで対応します。また、文化の面では、モネをはじめとして、フランス印象派とそれに続く画家たち(ルノワール、セザンヌ、ゴッホなど)のオルセー美術館の映像を鑑賞します。フランス近代美術の歴史にも触れ、理解することを目的とします。美しい映像を見ながら楽しく勉強していきましょう。(「」内は、各章のタイトルを示す)		◎	○	
150008112	現代フランス語基礎セミナーA I (理解)	1単位	2・3・4年	松丸 和弘	この授業は1年次において既にフランス語I-IIの習得を終えた学生を対象とします。フランスの言葉や文化を学ぶにしても、背景となる歴史が分かっているなければ、面白さも半減してしまうことでしょう。この授業では、百科事典の編集などで伝統のあるルルース社から出版された、図版入りで美しい子供向けの歴史読本、『フランスの歴史』L'Histoire de France (Larousse, 2006)を読むことにします。簡単なフランス語で書かれた文章を読み進めながら、人間の高貴さと野蠻が織り成す絢爛豪華なフランスの歴史を理解することを目的とします。	○	◎		
150008113	現代フランス語基礎セミナーA II (理解)	1単位	2・3・4年	谷口 博史	この授業の目標はいつまでもなくフランス語の理解を深めることである。しかし、語学の授業の場合でいう理解とは、単に文法や仕組みを納得することを意味するのではなく、その言語をより身近に感じるようになることである。どんな言語であれ、それを学び始める当初は、よそよそしい姿をしている。このよそよそしさを取り除くことが、理解することなのである。さまざまなアプローチの仕方や方法があるが、この授業では、基礎的なコミュニケーション能力の構築という観点から、フランス語の理解を深めていきたいと思います。そのためには、たとえば、動詞の活用を覚える場合でも、すべてを完全に覚えることが理想であるのはいつまでもないことだが、やはり初心者にとってはなかなか難しい。したがって、まず何よりも自分を中心に考えて、1人称を優先して覚えていくという具合にすすめていく。つまり、すでに学んだフランス語の知識を復習し再確認しながら、身近なところ、つまり自分を中心に再構築していくことによって、より確実なものにしていくことを目指す。	○	◎		
150008113	現代フランス語基礎セミナーA II (理解)	1単位	2・3・4年	松井美知子	ひきつづき、印象派の画家、クロード・モネについての子供向けテキストを読んでいきます。モネと印象派、睡蓮などの連作について、いよいよ佳境に入ります。フランスのArte制作のDVDを鑑賞し、モネの水蓮のモチーフとなった、庭園の様子もみていきます。中級文法の学習も、内容に即しながら、続けて行きます。美術に関するDVDを鑑賞、19世紀後半の印象派を中心とするフランス美術の全体像を把握するようにします。(細かい点は前期と同様)		◎	○	
150008113	現代フランス語基礎セミナーA II (理解)	1単位	2・3・4年	松丸 和弘	この授業は1年次において既にフランス語I-IIの習得を終えた学生を対象とします。フランスの言葉や文化を学ぶにしても、背景となる歴史が分かっているなければ、面白さも半減してしまうことでしょう。この授業では、百科事典の編集などで伝統のあるルルース社から出版された、図版入りで美しい子供向けの歴史読本、『フランスの歴史』L'Histoire de France (Larousse, 2006)を読むことにします。簡単なフランス語で書かれた文章を読み進めながら、人間の高貴さと野蠻が織り成す絢爛豪華なフランスの歴史を理解することを目的とします。	○	◎		
150008114	現代フランス語基礎セミナーB I (表現)	1単位	2・3・4年	CARIO, V.	授業の目的は、会話の練習や文法と語彙力を高めることによって、日常会話を身に付けることです。		◎		○
150008114	現代フランス語基礎セミナーB I (表現)	1単位	2・3・4年	松丸 和弘	この授業は、1年次において初級フランス語の習得を終えた学生を対象とします。「漫画」のフランス語訳を使って、日本語でふだん日常的に使われている単語や簡単な言い回しがフランス語ではどう表現されるのか学びます。既習の文法事項の確認をすることから始めますが、テキストのなかに使用されているさまざまな表現を応用することでフランス語の理解力を高め、簡単な自己表現ができるようにすることを目的とします。		◎		○
150008115	現代フランス語基礎セミナーB II (表現)	1単位	2・3・4年	CARIO, V.	授業の目的は、会話の練習や文法と語彙力を高めることによって、日常会話を身に付けることです。		◎		○
150008115	現代フランス語基礎セミナーB II (表現)	1単位	2・3・4年	松丸 和弘	この授業は、1年次において初級フランス語の習得を終えた学生を対象とします。「漫画」のフランス語訳を使って、日本語でふだん日常的に使われている単語や簡単な言い回しがフランス語ではどう表現されるのか学びます。既習の文法事項の確認をすることから始めますが、テキストのなかに使用されているさまざまな表現を応用することでフランス語の理解力を高め、簡単な自己表現ができるようにすることを目的とします。		◎		○
150008116	現代フランス語基礎セミナーC I (総合)	1単位	2・3・4年	武田 千夏	基本的に教科書(フランス語初級)に沿って授業を進めていきますが、同時にフランス文明について、その社会、文化、政治の成り立ちなどについて触れていきます。授業は三つのパートに分けられます。1)最初の30分は前回の授業の復習を兼ねたショートテストをします。2)次の30分でフランス語の勉強をします。3)最後の30分で、フランス社会についてのエッセー、新聞記事などを読んでいきます。取りあげるテーマは、休暇、観光、政治、女性、仕事、国土と地方、教育制度(小中高大)、食、季節とくらし、政治、仕事、宗教などです。とくに興味のある分野については、映画を見たり、本を参考にしつつ、知識を深めていきます。		◎	○	
150008116	現代フランス語基礎セミナーC I (総合)	1単位	2・3・4年	稲垣 正久	フランス語の初級文法を復習しつつ、「読む」「書く」「話す」「聞く」と多角的にフランス語を学習することによって、語学力の向上を目指します。	○	◎		
150008117	現代フランス語基礎セミナーC II (総合)	1単位	2・3・4年	武田 千夏	前期に引き続いて、次の2つの学習を続けていきます。1)最初の30分は前回の授業の復習を兼ねたショートテストをします。2)次の30分でフランス語の勉強をします。3)最後の30分で、フランス社会についてのエッセー、新聞記事などを読んでいきます。		◎	○	
150008117	現代フランス語基礎セミナーC II (総合)	1単位	2・3・4年	稲垣 正久	前期の『セミナーC1』に準じます。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい/到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008118	現代フランス語中級セミナーⅠ	1単位	3・4年	CARIO, V.	フランス語の口頭表現を学習し、身につけた表現・語句を用いる練習をして、語学力を向上させる。前期に引き続き、異なるテーマの語彙やパターンを使い、教師と、学生同士ペアでフランス語で会話をし、上達を確認する。		◎		○
150008119	現代フランス語中級セミナーⅡ	1単位	3・4年	CARIO, V.	フランス語の口頭表現を学習し、身につけた表現・語句を用いる練習をして、語学力を向上させる。前期に引き続き、異なるテーマの語彙やパターンを使い、教師と、学生同士ペアでフランス語で会話をし、上達を確認する。		◎		○
150008120	現代ドイツ語基礎セミナーAⅠ(理解)	1単位	2・3・4年	鈴木 桂子	ドイツ語の基礎を一年間学んだ学生を対象とし、ドイツ語文法のさらなる習得を確めるとする。基本的文法の復習もしながら、将来のドイツ語の勉強で必要となる土台を確かなものとする。ドイツ語を理解するために、授業では、訳読練習のほか、会話も取り入れ、自分の意思をドイツ語で伝えられるよう心がけていく。時間が許す限り、ドイツ文化や生活の紹介もしていくので、視野を広げる楽しさも体験してほしい。あらたに学んだドイツ語表現を理解し、応用できるレベルまでもっていくことが、到達目標である。		◎		○
150008120	現代ドイツ語基礎セミナーAⅠ(理解)	1単位	2・3・4年	西野 路代	現代ドイツの地誌、文化や生活様式を扱ったテキストを講読します。各時間、テーマのあるテキストを精読しながら、読解に必要な語彙・表現の獲得と定着、文法事項の確認を行います。授業はドイツ語の読解が中心になりますが、随時、リスニングや発音、独作文などの練習も加えます。また、テキストで扱われる現代ドイツの諸事情に触れることにより、ドイツ語を理解するうえでのバックボーンとなる知識を獲得し、異文化理解を深める時間にもしたいと思います。	○	◎		
150008121	現代ドイツ語基礎セミナーAⅡ(理解)	1単位	2・3・4年	鈴木 桂子	前期に引き続き、ドイツ語文法のさらなる習得を目指す。基本的文法の復習もしながら、将来のドイツ語の勉強で必要となる土台を確かなものとするのがねらいである。ドイツ語を理解するために、授業では、訳読練習のほか、会話も取り入れ、自分の意思をドイツ語で伝えられるよう心がけていく。時間が許す限り、ドイツ文化や生活の紹介もしていくので、視野を広げる楽しさも体験してほしい。あらたに習得したドイツ語の表現を理解し、自由に活用できるレベルまでもっていくことが到達目標である。		◎		○
150008121	現代ドイツ語基礎セミナーAⅡ(理解)	1単位	2・3・4年	西野 路代	前期に引き続き、現代ドイツに関する時事テキストを読みます。後期のテーマは「多文化」「環境」「歴史」「芸術」「クリスマス」です。既習事項を読解の場面で使いこなせるよう、語彙と表現の定着と構文の理解に努めたいと思います。各テーマごとのまとめの時間にはリスニングや簡単なアウトプットの練習も加えます。テーマ10では「ドイツのクリスマス」をテーマにグループワークによるプレゼンテーションを行います。	○	◎		
150008122	現代ドイツ語基礎セミナーBⅠ(表現)	1単位	2・3・4年	原 研二	耳と口を慣らして会話表現の基礎力をつける。使える語彙を増やす。レベルは2年生を想定。		◎		○
150008123	現代ドイツ語基礎セミナーBⅡ(表現)	1単位	2・3・4年	原 研二	前期に続いて、使える語彙と文型をふやす。		◎		○
150008124	現代ドイツ語基礎セミナーCⅠ(総合)	1単位	2・3・4年	網島 寿秀	ドイツの文化について、自分の興味の対象をよりよく理解するために必要なドイツ語の力を養う。映像なども利用し、話し言葉・書き言葉の両方に触れながら、いろいろな場面で応用できるように、文法をきちんと身につけてゆく。	○	◎		
150008125	現代ドイツ語基礎セミナーCⅡ(総合)	1単位	2・3・4年	網島 寿秀	ドイツの文化について、自分の興味の対象をよりよく理解するために必要なドイツ語の力を養う。ビデオ・DVDなど映像の助けを借りて、前期よりさらに複雑なドイツ語を読み解いてゆく。	○	◎		
150008126	現代ドイツ語中級セミナーⅠ	1単位	3・4年	原 研二	使える単語、文法力をつける。ドイツ語の構文に慣れる。日本語の排句と比較しながら、ドイツ語の韻律を学ぶ。短詩を暗記する。ドイツ人のユーモアにふれる。4年生を想定。	○	◎		
150008127	現代ドイツ語中級セミナーⅡ	1単位	3・4年	原 研二	前期よりもう少し複雑な韻律を学ぶ。4年生を想定。	○	◎		
150008028	アジアの美術	2単位	2・3・4年	菊地 淑子	日本を除く東アジア、内陸アジア、南アジア(インド)における造形芸術の歴史を学びます。講義を通じて、受講生がまるでアジア各地を旅してまわり、現地で造形作品を目にするかのような疑似体験をします。そして普段は馴染みがなかなかないかも知れないアジアの造形芸術に親しむことが、この授業のねらいです。工芸・絵画・彫塑・建築をまんべんなく見ていきます。	○	◎		
150008029	アジアの都市	2単位	2・3・4年	関口 真理	この時間ではまず総論として「都市とは何か」、「社会の中で都市の持つ意味は何か」を学び、その前提でアジアの中でも特にインドに関して「都市」という視点から学びます。インドは日本の約8倍の面積に12億を超える人口があり、多くの民族や宗教コミュニティが存在します。都市についても聖地、市場や港湾、軍事要衝、政治拠点や産業の集積地など、さまざまな特色があります。今年度は、インドの歴史の流れに沿って、各時代を代表する都市について今も目に触れられることができ、その都市を象徴するような文化現象を取り上げます。インド社会に関する基本事項も押さえながら話を進め、インドに初めて触れる受講者も本講義をきっかけにインドを知り、関心を持てるようになります。またアジア各地やヨーロッパとインドとの間わりにも触れ、各自の専門分野や地域との交流や文化・社会の比較ができるようにしていきます。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008030	日韓関係論	2単位	2・3・4年	上垣外憲一	日本と韓国(朝鮮半島)は、歴史時代の7世紀に入る以前から、深い関係を持ってきました。日本列島の北九州地域は、香岐、対馬という飛び石のような島々をはさんで朝鮮半島の最南端と向かい合っており、これが「大陸」に向かう、最も安全な航行の道であったからです。仏教、儒教など朝鮮半島からはじめて伝えられた文化現象も数多いのです。明治維新以後は、政治的、軍事的な関係が急激に重要となり、日清戦争や日韓併合を起しました。第二次大戦後、いわゆる国交正常化以後、両国の経済的な交流は急速に高まり、その上に最近の「韓流ブーム」があります。この授業では、こうした日韓の「切っても切れない」関係を、有史以前から現代まで、概観をたどり、なお、この授業では学生によるプレゼンテーションを重視し、成績評価に含めます。題名は「私と韓国」です。		◎		○
150008031	日中関係論	2単位	2・3・4年	趙 怡	世論調査では日中両国の国民が相手国に対して「親しみを感じない」ものは共に八割を超えていると言われています。領土問題や歴史認識に関する齟齬と対立などさまざまなマイナス要因を抱えながら、「爆買」が2015年の流行語にもなったように、「日中関係」はかつてないほど日常的なものにもなっています。このような時代こそ、本格的に「日中関係」について学び、かつ深く考える絶好のチャンスではありませんか。この授業では、日中関係の歴史を辿り、各時代を代表する事件や人物、または相手国に関する論述を取り上げ、当時の新聞を含む歴史資料、文学作品、または絵画や映像資料を通して具体的に考察します。日中両国のものだけでなく、第三国の資料も取り入れます。それによって一国の資料や一つの観点に偏らず、多様な視点でものを考え、多言語の史料を扱う能力を培っていくことをねらいます。またなるべく教師が話し、受講生が黙って聞くという一方通行的な授業方式を避け、受講生との討論や、受講生によるプレゼンテーションを重視します。授業での発言などに加えて、グループ単位で行う15分ほどの口頭発表を、成績評価に含めます。			◎	○
150008032	アメリカのジャーナリズム	2単位	2・3・4年	石岡 良治	アメリカ合衆国の歴史をたどると、ジャーナリズムが政治的決定や社会の変化に深く関わる場面が多いことに気付かされる。各時代の大統領は、選挙戦の時点から任期の間、様々なメディアを通じて政策をアピールする。そしてそれらをジャーナリストたちが絶え間なく検証し続けるプロセスが、アメリカの民主主義を支えている。また、自国の否定的な側面を含めた様々な社会問題を取り上げ、広く伝えていく報道は、単なる歴史の証言者にとどまらず、歴史の積極的な担い手でもあるだろう。本授業では、アメリカにおけるジャーナリズムのあり方について、メディア環境の変化を軸にして考察したい。演説や新聞にはじまり、写真、ラジオ、映画、テレビ、コンピュータと、媒体の変遷を時代ごとに追いつながら、それを象徴する出来事と、報道スタイルの特徴を検討したいと考えている。また、それと同時に考えたいのが、同一メディアの内部にみられる多様性である。例えば同じコンピュータを用いる報道でも、ウェブサイト、メルマガ、リスト、ブログなどでは役割が大きく異なる。こうした問題に関しては、とりわけ二十世紀後半から現在に至る「リアルタイム」の意味合いの変化に注目したい。最終的に、ジャーナリストが介在することで、あらゆる報道には「虚構」と「現実」の交錯がみられるということ、そしてメディア・リテラシーが使う人次第であることを明らかにしたいと考えている。	○	◎		
150008033	アメリカの都市	2単位	2・3・4年	米塚 真治	この授業で使用するビデオ教材は、2000年代半ばに著者二人がアメリカ各地にロケし、人々の生の声を収録したものです。第一部では主要都市や有名観光地を、街頭ロケや住民へのインタビューによって紹介しています。地域の歴史や背景を紹介するテキストは他にも存在しますが、ライブ感と映像の情報量という点で、本書は他に類を見ないものです。(科目の性格上、都市の部分以外は基本的に割愛します。) 第二部は、人々の職業観、結婚や家庭についての考え、愛国心、アメリカが世界で果たすべき役割、沖縄の基地や日本について思うことなどを、インタビューやトークによって特集しています。台本(やらせ)は無しなので、必ずしも良く練られているわけではなく、むしろ、首を傾げたい意見や、誤解に基づくコメントもありますが、そういったことも含めて、9.11からハリケーン・カトリーナにいたる時代のアメリカの都市生活者の本音に触れることができます。上記が、内容面におけるねらい・到達目標となります。語学の面では、現在TOEIC500点から600点向けの人向けに編まれたテキストですので、600点から700点が到達目標となります。人々が話す英語は概してかなり速く、話し方に癖があり、字幕も一切出ません。challengingですが、リスニングが得意な人や、テキスト付属のDVDを教室外で繰り返し見る根性がある人は履修してみましよう。スピードへの対応力、話をまとめる力、短期記憶力が向上するでしょう。		◎	○	
150008034	日米関係論	2単位	2・3・4年	高田 馨里	太平洋を挟んだ隣国同士であるアメリカ合衆国と日本の関係は、不平等関係、緊張関係、対立関係を経て、現在の「同盟」関係に至った。しかし、現在では緊密な「同盟」とされながらも、沖縄をはじめ日本各地に偏在する在日米軍基地をめぐる問題など、解決すべき問題は多い。つまり、国家関係のみでは把握しきれない、地域に生きる人々が被る問題が存在しているのである。本講義では、日本開国から21世紀に至る日米関係の歴史的背景を踏まえながら、その時代に特徴的な日米の文化交流に焦点をあてて、日米関係の過去と現在を深く理解することを目的としている。時代的には、日本の近代化、戦争の時代、戦後から現代に区分する。内容的には、それぞれの時代の日米関係を概観し、アメリカの戦争と日本、そして在日米軍基地問題など現代に連なる課題や問題点をあぶりだす。さらに、日米を結ぶ人と文化の交流に着目し、比較文化の視点から日米関係を考察したい。		○		◎
150008035	大衆消費社会論	2単位	2・3・4年	石岡 良治	現在のわたしたちをとりまく消費の環境について考えるさいに、「大衆」や「消費社会」という観念の成立を捉え直すことの意義は大きい。日常生活がどのように成り立っているのか、という事情を解明するがかりになりうるからだ。本講義では、主として産業革命以後の世界における「近代化」の流れを概観した上で、「大衆」や「消費」について考えていく。1950年代アメリカや高度成長期日本、そして情報コミュニケーションをめぐる技術の進展など、いくつかの重要な転換期を考察しつつ、大衆消費社会に関連する広範なトピックを扱っていきたい。授業の後半では現代に立ち返り、「大衆」という範囲にあてはまらないような様々な消費形態についての考察を行なう。身の回りにある題材を再検討することで、消費社会に対する多面的な視野の獲得を目指す。	○		◎	

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008035	大衆消費社会論	2単位	2・3・4年	城殿 智行	2011年3月の震災直後に、流通網が乱れた各地域においては、スーパーやコンビニの商品棚に一時的な空白が生じたため、多くの人々がこぞって食料や飲料水の買い占めに走り、小売店の品薄状態に拍車をかけたばかりか、被災地への救援物資確保にさえ、少なからず影響をあたえました。歴史的な観点に立てば、そのような行為に走る人間こそまさに「大衆」と呼ばれますが、彼・彼女らはなぜ、自らの利己的な行為がおよぼす社会的な影響をあまりかえりみずに、振る舞うのでしょうか。もちろん、いつの時代にも、利己的に行動する人間はそれなりに存在してはいますが、そのような人間が必ずしも各時代において大多数を占めてきたわけではないのだとすれば、いったい、いつごろから「大衆社会」が形成されたのでしょうか。また、見方を変えれば、そうした出来事は、私たちの現在の生活が、いかに複雑・多様な生産と流通の網の目によって可能になっているのかを、物語ります。私たちの多くが、日々膨大に廃棄されていく多量の生産物に絶えずとり囲まれていないと満足できない、過剰な消費生活を送っているのです。この授業では、現代のあまりにも「豊かな」大衆消費社会がどのように成立し、そこにいかなる問題が生じているのかを歴史的に学びながら、今後の社会のあり方を考えます。なお、受講者の学習進捗状況に応じて、以下の授業内容とスケジュールを適宜調整することがあります。	○		◎	
150008036	ヨーロッパ統合の思想	2単位	2・3・4年	井上 淳	※履修登録前にシラバスを必ず読むこと。この授業は、教員が指定するチームで教科書の内容報告、質疑応答、作品制作にとりくみます。manabaも使います。受け身で解説を聞く方がよい人には向きません。※本講義では、なぜヨーロッパでだけ国をこえた統合が可能になったのかを、歴史的・思想的に理解することを目的にしている。「ヨーロッパ統合」という発想は、実は数百年前から形をかえて存在してきた。それぞれの時代にどのような人が、なぜ、国をこえて協力しようとするにいたった(迫られた)のだろうか? 様々な統合構想を検討することで、3・4年で本格的に学ぶことになるEU(European Union:ヨーロッパ連合)の存在意義を実感する。また、科目としては「異なる」授業で扱われる歴史・思想・社会・外交が、そして同じく「断絶している」ように紹介される中世・近代・現代が、意外とつながっていると実感することも意図している。		◎		○
150008036	ヨーロッパ統合の思想	2単位	2・3・4年	上原 史子	本講義ではヨーロッパの現状を理解するためにECの誕生から約60年の歴史を概観するとともに、現在のEUが抱えている外交、経済社会問題、政治文化問題を広く学ぶことを目標とします。その際、リージョナリズムの一例としてのヨーロッパ統合が直面している安全保障や気候変動などの諸問題、ウクライナをめぐるEUの対ロシア関係、中東・アフリカからの難民問題、テロとの戦い、またヨーロッパの地域統合のアジアへの応用可能性についても受講生の皆さんと議論する予定です。特に3.11のアクシデントを受けて、ヨーロッパでは原子力を含む気候変動・エネルギー政策の改革が進められています。日本の気候変動・エネルギー安全保障問題において有用な政策もみられることから、次世代を担う皆さんにもその実態を知り、本講義が日本の将来についてしっかり考える時間となることを期待しています。		◎		○
150008037	日欧関係論	2単位	2・3・4年	武田 千夏	日欧関係について、歴史、政治、経済、文化の諸側面からアプローチする。1: 日欧貿易以来の日本と西欧諸国の史的関係を概観する。2: 貿易関係を基盤とした日本とヨーロッパの関係から生まれた文化交流について考察する。3: 現在日欧の経済交流の根底に横たわる文化の認識の違いを把握し、それが相互のイメージに影響していることを理解する。講義のほか、さまざまな文章を読んだり、映像を見たりします。具体的に取り扱うテーマとしては、18世紀～21世紀にわたるジャポニズム、日本人女性のブランド志向、バリ症候群、宗教観とコミュニケーションギャップ、ポストモダニズムにおける日仏の消費文化と国民性、国際結婚など。		○	◎	
150008038	イスラムの文化と社会	2単位	2・3・4年	北原 圭一	イスラーム(イスラム)という言葉から私たちは何を連想するでしょうか。特に近年問題となっているシリア内戦やIS等の過激派によるテロ事件などから、イスラーム原理主義(イスラーム主義過激派)とテロリズムの荒々しく恐ろしいイメージを抱いている方が多いかもしれません。あるいは、黒いヴェールをまとって隔離された女性たち、酒や豚肉が禁止された食事等に象徴される抑圧的で不自由な宗教というイメージを抱いている方もいるでしょう。ですが、イスラームがただ暴力性と狂信性と抑圧性だけに特徴付けられる宗教であるとするれば、どうして世界に16億人ともいわれる信徒を惹きつけることができるでしょうか。イスラームという宗教には、きっと人の心を惹きつける「何か」があるに違いありません。そう考えられないでしょうか。西暦七世紀のアラビア半島に勃興したイスラームは、その後の歴史を通じて、北アフリカから中央アジア、東南アジアに至る極めて広大な文化圏を築き上げるに至りました。言うまでもなくこのイスラーム文化圏においても、西洋キリスト教世界等と同様に、あるいは時にそれ以上に、諸学問や文学・絵画・建築等の文化が豊かに花開き、独自の知的・精神的活動が展開されてきました。本講では、イスラームの世界的な広がりの中で統一性と多様なあり方を概観することから始め、通常日本では紹介されることが極めて少ないイスラーム世界の文化史的側面と社会の特質を、比較文化の視点に基づきつつ、アラビア語・建築・文学(『千一夜物語』等)・絵画(細密画)・音楽(中東の古典音楽)・映画等を中心に、具体的な作品やモノに即して考察していき、イスラームについて偏見のない正しい知識をもてるようになることを目標とします。	○	◎		
150008039	現代中近東事情	2単位	2・3・4年	北原 圭一	中東イスラーム諸国は、特に米国同時多発テロ事件やその後のアフガニスタン空爆とイラク戦争以降、「アラブの春」を経て、IS等の過激派の台頭と各地で頻発するテロ事件、トルコ内政の不安定化、イラン核協議の合意、サウジアラビアを筆頭とするスンナ派諸国とイランを中心とするシーア派勢力との対立など、その政治・社会状況は目まぐるしく変化しています。また、国際社会がこれらへの対応を迫られていることも周知の通りです。こうした状況を受けて、私たち日本人の中東地域への印象は悪化の一途をたどっていると思われませんが、このような時代だからこそ、国際社会の一員である私たちは、中東地域で実際のところ何が、なぜ起こっているのか、彼らは何を考えているのか、といった問題への理解を深めていかなければならないのではないのでしょうか。こうした問題意識に基づき、本講では、中東イスラーム世界に暮らす人々の生活・文化のあり方や社会と政治の仕組みなどを、風土、音楽や映画、食文化、女性の地位、教育など具体的な事例に即して学びながら、中東イスラーム世界の現状や、国際関係とその歴史的背景への理解を深めることを目標とします。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008040	現代ロシア・東欧事情	2単位	2・3・4年	山田 朋子	現代のヨーロッパを理解する上で、ロシア・東欧地域を知ることは必要不可欠である。また、ロシア・東欧地域の文化や人々の考え方を理解するには、その社会主義時代を知る事が重要である。ロシア革命によって世界初の社会主義国となったソビエト連邦は、第二次世界大戦後に「東欧圏」をつくりだした。しかしその内部にはソ連型社会主義に対する不満が強かった。とりわけポーランドやハンガリー、チェコスロヴァキアでは、強い抵抗がみられた。これらの国々に住む人々は、第一次大戦後に国民国家を築いたが、第二次大戦中ナチス・ドイツやソ連による占領を経験した。こうした複雑な歴史と強い民族意識を背景に、彼らは戦後、ソ連の圧力のもとで民主化を求めたのである。この授業では、映像資料を活用しつつ、冷戦期のロシア・東欧地域を中心に、ソ連崩壊までの世界を概観する。	○	◎		
150008041	口承文芸と民間信仰	2単位	2・3・4年	安藤 恭子	口承文芸とは、文字に書き記されることなく、人々の口から口へ語り継がれてきた物語のことです。具体的には、神話・叙事詩・伝説・民話などを指します。人類は文字によって文化を発達させ、記録し、歴史を刻んできたと考えられていますが、無文字社会にも人々が育んだ文化があり、その文化は文字をもった社会に大きな影響を与えてきました。また、文字によって歴史に刻まれた一部の権力者だけに注目しては、その社会の圧倒的多数の民衆の人々の生活、文化が無視されることになるでしょう。こうした問題に対して、民俗学は、口承文芸とその精神的基盤となる民間信仰を研究対象としてきました。この授業では、日本の社会に保持されている豊富な口承文芸と民間信仰を、現代を生きる私たちの問題としてとらえなおすことを目標とします。北方、東北、東京(江戸)、沖縄などの口承文芸を取り上げ、そこに見られる世界観、歴史的・文化的背景をとらえながら、それらが近代・現代の文化とどのように接続しているのかを考えます。			◎	○
150008041	口承文芸と民間信仰	2単位	2・3・4年	鈴木 孝子	古来より、日本人の宗教的感性の根底には、自然界また神聖なものに対する畏怖と崇拝が内在していた。このような宗教的感性を基盤に、先人たちは仏教をはじめ様々な宗教・文化を消化吸収し、豊かな精神性を育んできた。しかし、日本的な宗教性はむしろ芸術・芸能の領域内で昇華され、民間信仰の中に本質が温存されているのではないであろうか。教理経典に捉われない自由な宗教性は、日本の芸術において見出されると想定される必要がある。この授業では、日本の口承文芸また芸術の中に、日本的な宗教観がいかに反映されているかを吟味し、日本の伝統文化の概略を学んで行く事としたい。また、各時代の知識人による民俗学的研究にも目を配り、当時の人々が日本の宗教性をどのように解釈して来たのかも検討することとしたい。受講生にとって、この授業が日本の伝統文化を考え直し、自分自身と日本の文化との関わりを考え直す機会となれば幸いである。			○	◎
150008042	多民族・多文化社会	2単位	2・3・4年	関根 薫	オーストラリアでは自由保守連合が政権を保持したが、環境問題や市民権テストも継続されている。またカナダと同様に多文化主義が採用され続けている。S. カースルズとM. J. ミラーは『国際移民の時代』のなかで、シチズンシップの概念から世界の国々を、帝国モデル、民族あるいはエスニックモデル、共和制モデル、多文化モデルの4モデルに分類し、多くの国々がグローバル化に伴って多文化主義社会に向かっていると示唆している。オーストラリアではすでに1970年代後半より多文化主義を政策としている。第二次大戦後、防衛上の不備の改善と経済発展のため、大量移民受け入れ政策を導入したオーストラリアは、移民受け入れ圏の拡大とともに多民族国家、多文化主義社会へと変貌を遂げる。かつての白豪政策から、同化政策、統合政策を経て多文化主義を国とし、党派を超えて多文化主義社会の構築へと向かう。1989年にホーク労働党政権下で採用された『多文化社会への全国的課題』では、移民の文化的独自性、社会正義、経済的効率を基本理念とし、機会の平等と参加、公用言語の奨励、ゲットーやスラムの発生防止、積極的差別是正措置の実施に加え、主流社会の異文化や異言語への寛容性の強化などが組まれている。さらに10年後の1999年の『新課題』では民主主義と人権重視型の多文化主義が強調されている。2005年12月、シドニー南部クロナフ・ビーチでのレバノン系住民と白人の小競り合いが5千人の大規模な暴動に発展する事件や、2011-12年には中国系およびインド系留学生が差別主義を唱える若者に襲撃される事件も相次いで起きているが、多文化主義は社会の基本概念であり続けている。今やエブリデー多文化主義社会と呼ばれる多文化主義社会に求められるものは何か。市民権テストの継承による望まざる移民や認められざる移民が生まれる可能性が高まるのか、あるいは反対に減るのか。市民に限りなくともなれない放浪者が世界的に増加する危険性は高まるのか。多文化・多民族に対する懸念が渦巻くなかで、オーストラリアの多文化政策が目まぐるしく変化する。自由連合政権の描く多民族・多文化主義が労働党政権とどのように異なるのか、新しい多文化主義を編み出すのか、明らかにされてはいないが、従来のような党派を超えた政策として、保守連合が政権をとった時点で政策変更はなく、当分は多文化主義が政権の基本となっている。しかし今後の動向を見守る必要がある。授業では映画やドキュメンタリーなどの映像を通して、オーストラリアの多民族・多文化社会の課題に眼を向けたいと思う。	○	◎		
150008043	比較文化演習1-I	2単位	3年	赤松美和子	台湾の文学と文化 本授業は、台湾の文学と文化について知識を深めることを目的としています。担当者は担当論文について内容をまとめ、発表します。担当者以外の受講者は指定された論文を予め精読した上で授業にのぞみ、内容について必ず質問してください。発表の仕方や論文の書き方など、研究、発表をする上で必要な方法技術を身につけ、卒業論文を書くための基礎力をつけましょう。	○			◎
150008044	比較文化演習1-II	2単位	3年	赤松美和子	受講者自身が各自、卒業論文に向けて興味のある分野についての論文を収集し、その内容をまとめ発表します。一回の授業につき、三名の発表者を予定していますので、一人一回発表の機会があります。発表者は、事前にレジュメ(A4四枚程度)を作成し、三日前までに全員に添付ファイルで送付してください。発表者の担当時間は30分、発表時間15分(読み原稿4500字)、ディスカッション15分です。15分で発表できるように準備してきましょう。発表者以外は、発表者に対して必ず質問をしてください。資料収集、発表の仕方や論文の書き方など、研究、発表をする上で方法技術を身につけ、卒業論文を書くための基礎力をつけましょう。	○			◎
150008045	比較文化演習2-I	2単位	3年	石川 照子	★テーマ:「ジェンダー研究」世界のさまざまな地域のジェンダーに関する問題について、多様な方法論を通して学んでゆく。ジェンダーという概念を用いることによって、世界の諸地域のどのような状況や問題が、新たに見えてくるのだろうか。そして世界をどのように再構築することができるのだろうか。こうした問題意識をもって半年間共に学んでゆく。			○	◎

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008046	比較文化演習2-Ⅱ	2単位	3年	石川 照子	「ジェンダー研究」を中心とした卒論指導 論文の輪読を中心に、履修者の卒論指導を行う。		○		◎
150008047	比較文化演習3-Ⅰ	2単位	3年	井上 淳	本演習は、卒業論文を書くために必要な作業に慣れることをめざしている。とりわけ、他者(本や論文の筆者)の意見を聞いてその主張・立場を正確に理解し、自身との相違を認識し、改めて自身の意見をまとめることができるようになることを目指す。なお、演習で学ぶ対象や学び方(計画)の詳細については、演習選択時に配布された冊子(申告書)を参照のこと。			○	◎
150008048	比較文化演習3-Ⅱ	2単位	3年	井上 淳	本演習は、各自の研究テーマと問題意識をほりさげること、そして卒業論文執筆作業を体感してもらうことをねらいとする。演習で学ぶ対象や学び方の詳細については、演習選択時に配布された冊子(申告書)を参照のこと。学期末に小論文(10,000字)を執筆することを目標に、各自関心のあるテーマで文献を調査、その成果をプレゼンテーションしてもらおう。いざ卒業論文を書くときに資料収集、情報整理、論文執筆の方法に悩むことがないよう、作業に慣れておくのが最大のねらいである。			○	◎
150008049	比較文化演習4-Ⅰ	2単位	3年	高山 宏	比較文学に独自の貢献をした結果、大掛りな比較文化論の世界をつくりだすことになった先達の仕事をとりあげて議論を重ねる中で、比較文化論の基本的方法を身につける。		○		◎
150008050	比較文化演習4-Ⅱ	2単位	3年	高山 宏	ヴィジュアル・カルチャー、マニエリスム、グロテスクの三大テーマに絞って比較文化論をつくりあげてみる。基本、文学と美術を交差させる作業だが、文化一般へ論は広がる。		○		◎
150008051	比較文化演習5-Ⅰ	2単位	3年	行田 勇	謎解きの言語学シリーズ 発展編・我々が普段なにげなく使っている「ことば」のもつ様々な「謎」を解き明かすことを目標とする。また、「ことば」にかかわる様々な現象について考え、その解決を探るための方法論を身につける。「ことば」は、精密な規則性、いわゆる文法規則のもとに成り立っている。「文法」と聞くと、大方の人は、中学校や高校時代に「苦勞して暗記した悪夢がすぐによみがえってしまうのではないだろうか。しかし、文法というものは、言語を使う際に、我々が知らず知らずのうちに従っている規則性のことなのである。確かに「三人称単数現在の-s」も規則だが、この授業で扱うのは、もっと広い意味で、「言語の背後にある様々な規則性」を明らかにすることである。「謎解きの言語学シリーズ」の中間に当たる講座である。言語科学入門(1・2年)→本講座(3年)→比較文化セミナー(4年ゼミ)		○		◎
150008052	比較文化演習5-Ⅱ	2単位	3年	行田 勇	謎解きの言語学シリーズ 発展編・我々が普段なにげなく使っている「ことば」のもつ様々な「謎」を解き明かすことを目標とする。また、「ことば」にかかわる様々な現象について考え、その解決を探るための方法論を身につける。「ことば」は、精密な規則性、いわゆる文法規則のもとに成り立っている。「文法」と聞くと、大方の人は、中学校や高校時代に「苦勞して暗記した悪夢がすぐによみがえってしまうのではないだろうか。しかし、文法というものは、言語を使う際に、我々が知らず知らずのうちに従っている規則性のことなのである。確かに「三人称単数現在の-s」も規則だが、この授業で扱うのは、もっと広い意味で、「言語の背後にある様々な規則性」を明らかにすることである。「謎解きの言語学シリーズ」の中間に当たる講座である。言語科学入門(1・2年)→本講座(3年)→比較文化セミナー(4年ゼミ)		○		◎
150008053	比較文化演習6-Ⅰ	2単位	3年	原 研二	諸芸術を素材に、共感魔術論、フロイト、ユング、折口信夫、群衆論によって人間の主体を考えていく。		○		◎
150008054	比較文化演習6-Ⅱ	2単位	3年	原 研二	折口の方法、フレイザーの方法、バシュラールへの共感、フロイトの示唆、群衆論、道化論について深く学ぶ。		○		◎
150008055	比較文化演習7-Ⅰ	2単位	3年	佐藤 実	前期はアジア研究入門でつちかった知識をふまえ、現代の哲学者である李沢厚の『華夏美学』(邦題『中国の伝統美学』)をよみます。 伝統中国の美意識について、幅広い古典的知識をもとにのみよいた本書を精読することで、ひろく中国の伝統文化をとらえるきっかけとします。 また関連する学術論文をよみ、卒業論文の執筆準備にそなえます。			○	◎
150008056	比較文化演習7-Ⅱ	2単位	3年	佐藤 実	後期は李沢厚『中国の伝統美学』の精読にくわえて、受講者の研究発表をおこないます。前期にふれたトピックのなかから受講者それぞれが関心を持つものをテーマにえらんで、それについてしらべて発表をしてもらいます。4年生の卒業論文につなげたいとおもいます。	○			◎
150008057	比較文化演習8-Ⅰ	2単位	3年	渡邊 顕彦	古代ギリシアと現代ギリシャについて、わかりやすい教科書を基に、包括的に学んでいきます。また古代ギリシアの近現代欧米やその他世界における受容についても考えていきます。		○		◎
150008058	比較文化演習8-Ⅱ	2単位	3年	渡邊 顕彦	前期にひきつづき、古代ローマについて、わかりやすい教科書を基に、その歴史、文化、文学を学んでいきます。欧米、特に西ヨーロッパの形成に多大な影響を与えた古代ローマの包括的な理解につとめます。また、4年次の卒業論文について、最後にガイダンスを行います。古代地中海文化の現代にもたらす影響について、複数回の校外授業を行う可能性があります。		○		◎
150008059	比較文化演習9-Ⅰ	2単位	3年	安藤 聡	マイケル・ポンドの『くまのパディントン』シリーズの第1巻を原文で読みます。作品の講読を通して英語読解力を鍛えると同時に、小説や児童文学の読み方を習得し、作品に描かれた英国における生活様式を分析し、英国文化に対する理解を深めることを目標とします。また、各受講生が英国文化の諸相について調査し発表することを、テキストの講読と並行して行います。		○		◎

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008060	比較文化演習9-I	2単位	3年	安藤 聡	前期に引き続き『くまのバディントン』シリーズ第1巻を読みます。また、受講生による研究発表は、次年度の卒業論文に向けてテーマを絞ることを目標とします。		○		◎
150008061	比較文化演習10-I	2単位	3年	佐藤 円	冷戦の終息により、イデオロギー上の対立が解消されたかに見える現代世界においても、「人種」や「民族」をめぐる対立や紛争は依然として各地で続いている。それは、なぜ人々は今なお「人種」や「民族」にこだわり続け、それを理由に敵対するのであろうか。あるいは、そもそも「人種」や「民族」とはいかなるものなのだろうか。このセミナーでは、このような本質的な問いに対する答えを探るため、現在世界各地で発生している、或いは過去に発生した「人種」や「民族」に関わる問題を取り上げて、それらを文化的、社会的、政治的観点から比較検討する作業を行う。			○	◎
150008062	比較文化演習10-II	2単位	3年	佐藤 円	冷戦の終息により、イデオロギー上の対立が解消されたかに見える現代世界においても、「人種」や「民族」をめぐる対立や紛争は依然として各地で続いている。それは、なぜ人々は今なお「人種」や「民族」にこだわり続け、それを理由に敵対するのであろうか。あるいは、そもそも「人種」や「民族」とはいかなるものなのだろうか。このセミナーでは、このような本質的な問いに対する答えを探るため、現在世界各地で発生している、或いは過去に発生した「人種」や「民族」に関わる問題を取り上げて、それらを文化的、社会的、政治的観点から比較検討する作業を行う。			○	◎
150008063	比較文化演習11-I	2単位	3年	銭 国紅	テーマ:東アジアを知る。二十一世紀はアジアの世紀と言われるほど、世界におけるアジアの存在がかつてないほど大きくなっている。しかしアジアとアジア(日本)、アジアと世界との関わりがどうだったのか、これからどうなるべきかについては、まだまだ研究されていない部分が多い。日本でも近代以来、西洋の視点からのみものを見て、アジアの視点の確立を怠ったため、歪んだ世界像・アジア像がいまだに横行しているのが実情である。したがってアジアとアジア(日本)、アジアと欧米との間の相互認識をもう一度捉えなおしてみること、日本にとってアジアとは何かを考え、アジアのアイデンティティーを明らかにし、アジア比較文化の視点を確立することこそが、このセミナーの狙いである。具体的には、次のような問いかけを中心に議論することになる。1 東アジアとは何か(概念、範囲、現状)。2 アジアのアイデンティティーはどうなっているか 3 東アジア共同体の構築は可能か 4 日本とアジアの相互認識がどうなっているか 5 東アジアの共通文化とは何か 6 東アジアにおける「家族」意識と儒教との関係はどうなっているか 7 東アジア域内の文化交流は進んでいるか		○		◎
150008064	比較文化演習11-II	2単位	3年	銭 国紅	テーマ:東アジアを知る。二十一世紀はアジアの世紀と言われるほど、世界におけるアジアの存在がかつてないほど大きくなっている。しかしアジアとアジア(日本)、アジアと世界との関わりがどうだったのか、これからどうなるべきかについては、まだまだ研究されていない部分が多い。日本でも近代以来、西洋の視点からのみものを見て、アジアの視点の確立を怠ったため、歪んだ世界像・アジア像がいまだに横行しているのが実情である。したがってアジアとアジア(日本)、アジアと欧米との間の相互認識をもう一度捉えなおしてみること、日本にとってアジアとは何かを考え、アジアのアイデンティティーを明らかにし、アジア比較文化の視点を確立することこそが、このセミナーの狙いである。具体的には、たとえば、今までのゼミ生の研究発表には次のようなものがある。1 中国の外交戦略 2 アジアのアイデンティティー 3 東アジア共同体の構築 4 日本とアジアの相互認識 5 東アジアにおける「家族」の比較 6 東アジアにおける「女性」の見方 7 日本と中国における「冠婚葬祭」の比較 8 東アジア域内の文化交流 9 日中韓の「漢字」文化の今 10 日中韓の流行文化の今 11 韓流と華流とは 12 近現代中国の映画と舞台から見えるもの 13 儒教は生きているか		○		◎
150008065	比較文化演習12-I	2単位	3年	武田 千夏	自分が追求したいテーマを1つ決めて(途中で変えてもかまわない)、それに沿って自分で本を選んで読んで、考えて、まとめていく、という訓練をします。ゼミで書評、あるテーマについて自分の考えをまとめたレポートを発表するとともに、仲間の発表に対して、批判的にコメントを出すことが求められます。一年後には、自分の考えや感情を明確に表現できることを目標とします。(その結果、卒論のテーマも自分で考えられるようになるのが目標です。)		○		◎
150008066	比較文化演習12-II	2単位	3年	武田 千夏	前期に続いて、やや難解な本を読んで、自分で考えて、それを文章化していく訓練を続けます。前期とは異なるテーマを選んでもいいですし、前期と同じテーマを別の視点からさらに追求するのでも構いません。自分が追求するテーマから見て意味のある文献を探し出すスキルも身につけていきます。さらに諸文献の中から、自分にとってとくに重要な核となるような文献を選別する力も身につけながら、自分のテーマを深めていきます。前期同様、ゼミで書評、自分の考えをまとめたレポートを発表するとともに、仲間の発表に対しても、批判的にコメントを出すことが求められます。後期の終わりまでには、さまざまな視点に対して、自分の個性を重んじながらも、明確でバランスの取れた意見を表明できるようになってもらいたいです。そのためのスキルとして、大きく分けて、フランス型、イギリス型の2つのアプローチによる整理の方法があることを説明します。		○		◎
150008067	比較文化演習13-I	2単位	3年	高田 馨里	本演習授業では文献調査・研究史の整理・論文執筆という歴史学研究の基礎力を向上させることを目的としている。本演習Iでは、アメリカ合衆国の歴史、文化、政治、経済、社会問題に関して(1)共通の文献を講読しながら研究史を概観する。(2)受講生自らのトピックに関する先行研究文献・論文の調査を行う。(3)(1)(2)の作業に基づき、収集した文献・論文リストを作成し、内容に関して報告を行う。これらの歴史学研究の基本となる作業を身に着け、後期の演習IIIに向け、準備を進める。		○		◎
150008068	比較文化演習13-II	2単位	3年	高田 馨里	演習IIでは、4年次卒業論文執筆に備えた、先行研究の整理と研究動向論文(卒業論文序章部分)を準備することを目的としています。前半では、前期に調査した文献リストとブックレポート、夏休みに読み込んだ文献・論文を整理し、卒業論文執筆に備えます。後半では、受講生の卒業論文テーマにそった資料調査を行い、実際に論文執筆を開始します。		○		◎

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい/到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008069	比較文化演習14-I	2単位	3年	上野 未央	現代ヨーロッパ文化の源流としての中世以降のヨーロッパ文化史を学びます。テキストの読解、授業での発表を通して、ヨーロッパの文化と歴史についての基礎的な知識を身につけ、参加者それぞれが、これから研究対象として掘り下げていくテーマを見つけることを目指します。テキストとして使う『中世ヨーロッパを生きる』には、近年、歴史学の分野で注目されてきている「ふつうの人たち」の生活文化を扱った論者が多く収められています。ファッション、食生活、親子関係、音楽、学生生活など、現代の日本に生きる私たちにも身近なキーワードを通して、中世のヨーロッパはどのような世界だったのかを学びます。中世から近代への歴史的文脈の中で個別のテーマをとらえること、異なる地域・時代と比較する視点を持つことを重視します。テーマに関連した映像資料を利用することもあります。		○		◎
150008070	比較文化演習14-II	2単位	3年	上野 未央	論文講義を行います。最初の数回の授業では英語で書かれた本の一部を読み、その後で日本語の論文を読みます。英語の本は、全員で輪読します。日本語の論文は、受講生の関心のあるテーマに沿った論文を数編選び、論文1本につき1~2名の報告者をおいてディスカッションを行います。研究論文を読み、論文の論点をつかみ、分からないところを調べてきて報告します。それによって、論文とはどのようなものか、史料はどのように使うのか、注はどのように付けるのか、といったことを学びます。		○		◎
150008071	比較文化演習15-I	2単位	3年	米塚 真治	到達目標1 卒論執筆に必須の能力である、研究対象および関連文献のクリティカル・リーディング、要約、引用、コメント力を身につけること2 現代を歴史から、また日本を世界から見る視点を得ることねらい Christopher J. Armstrong, Anthony Piccolo, 板倉 徹一郎『問題意識を持って読むアメリカ 15のトピック』をテキストとして使用する。テキストは、マスメディア、特に映画が、現在のアメリカ社会をどのように反映し、形成し、批判しているのかを、さまざまな角度から解説している。授業はおおよそ次のように進む。テキストの当該トピックから連想する言葉や、知っていることを、全員が一つずつ挙げ、前提となる知識を共有する。教員が参考資料を用いて補足説明する。TOEFL形式の設問に解答しながら、当該の章をパラグラフごとに読み進める。当該の章で採り上げられている映画、あるいは関連する映画のうち二つについて、指名された受講者がプレゼンを行う。プレゼンは、発表者が選択したいくつかのシーンの上映、解説、コメントなどから成る。他の出席者や教員が、プレゼンから連想したことを言っていく。発表者がそれにコメントする。			○	◎
150008072	比較文化演習15-II	2単位	3年	米塚 真治	到達目標1 卒論執筆に必須の能力である、研究対象および関連文献のクリティカル・リーディング、要約、引用、コメント力を身につけること2 現代を歴史から、また日本を世界から見る視点を得ることねらい Christopher J. Armstrong, Anthony Piccolo, 板倉 徹一郎『問題意識を持って読むアメリカ 15のトピック』をテキストとして使用する。テキストは、マスメディア、特に映画が、現在のアメリカ社会をどのように反映し、形成し、批判しているのかを、さまざまな角度から解説している。授業はおおよそ次のように進む。テキストの当該トピックから連想する言葉や、知っていることを、全員が一つずつ挙げ、前提となる知識を共有する。教員が参考資料を用いて補足説明する。TOEFL形式の設問に解答しながら、当該の章をパラグラフごとに読み進める。当該の章で採り上げられている映画、あるいは関連する映画のうち二つについて、指名された受講者がプレゼンを行う。プレゼンは発表者が選択したいくつかのシーンの上映、解説、コメントなどから成る。他の出席者や教員が、プレゼンから連想したことを言っていく。発表者がそれにコメントする。			○	◎
150008073	比較文化演習16-I	2単位	3年	江頭 浩樹	2014年度比較文化演習では日英語の比較を行います。日本語と英語の違いは様々ありますが、その違いが言語そのもの(nature)によるものなのか、それとも文化的なもの(nurture)によるものかを見極めなければなりません。本演習では前者に由来する日英語の違いを研究していきます。その道具として、前期に「生成文法」を学んでいくことにします。前期に英語をもとに、生成文法の基礎を学びます。		○		◎
150008074	比較文化演習16-II	2単位	3年	江頭 浩樹	後期は語構造と音韻構造についてみていく。		○		◎
150008075	比較文化演習17-I	2単位	3年	貫井 一美	スペイン文化についての基本的知識を身につけることを目的とする。主にスペインの歴史・地理、文学、美術の視点からそれらを通史的に学ぶことで、スペイン文化を概観し、3年以降の各人の具体的なテーマ選択の幅を広げていく。前期はローマから17世紀までを取り上げる。テキストのテーマに即してそれぞれに担当を決めて発表形式で進めていく。		○		◎
150008076	比較文化演習17-II	2単位	3年	貫井 一美	スペイン文化についての基本的知識を身につけることを目的とする。主にスペインの歴史・地理、文学、美術の視点からそれらを通史的に学ぶことで、スペイン文化を概観し、3年以降の各人の具体的なテーマ選択の幅を広げていく。前期はローマから17世紀までを取り上げる。前期と同様に担当を決めて発表という形で進めていく。		○		◎
150008077	比較文化演習18-I	2単位	3年	JOHNSON,G.S.	テーマ:「近代女性の生涯を書く」女性の自伝と伝記文学目的はいくつか有ります。一つは女性伝記文学という分野を通して、近代日本の歴史の中の女性に対する理解を深める事です。もう一つはその女性史の理解を世界に伝える事です。三つ目は文書を翻訳する能力を身に付けることです。	○			◎
150008078	比較文化演習18-II	2単位	3年	JOHNSON,G.S.	テーマ:「近代女性の生涯を書く」女性の自伝と伝記文学目的はいくつか有ります。一つは女性伝記文学という分野を通して、近代日本の歴史の中の女性に対する理解を深める事です。もう一つはその女性史の理解を世界に伝える事です。三つ目は文書を翻訳する能力を身に付けることです。	○			◎

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎: 特に関係する ○: 関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008079	比較文化演習19-I	2単位	3年	上垣外憲一	このクラスはゼミですので、学生との自由な対話を基本とします。その点ではシラバスに書くことはありませんが、四年次に卒業論文を書くことを目標として、かなりレベルの高い論文を作成することを指導します。まず春学期には、自身の考えをまとめるためにプレゼンテーションを、全員の前で発表して、それからレポートにまとめる、という段階を踏みます。原稿を見ないで、自分の考えを発表するプレゼンテーションは、就職試験の面接のためにも役立ちますから、それ自体も大切です。また論文の成否を決めるのは、最初のテーマ設定がとても大切です。自由な会話から、次第に自分の興味の焦点を探し当てていくことを始めに行わないと、いくら論文作成の形式を学んでも、実際の執筆の段階で熱意が湧かず、失敗する原因になります。したがって、この授業の最初の部分では学生との自由な会話を重視します。	○			◎
150008080	比較文化演習19-II	2単位	3年	上垣外憲一	この授業では、四年次の卒業論文作成の準備段階として、4000字程度の小論文を作成することを目標にします。ゼミの本来の目的は学生との自由な対話にあります。この授業もそうですが、四年次に近づいた分、論文をしっかり書けるようにするという学習目標が少し重くなります。また、自分自身が一番興味を持っていることを書くということが大切です。自分が大学での学習に何を求めているのか、いつも意識して想像力を高めてください。	○			◎
150008081	比較文化演習20-I	2単位	3年	未定	本年度は開講しない。				
150008082	比較文化演習20-II	2単位	3年	未定	本年度は開講しない				
150008083	比較文化演習21-I	2単位	3年	久保 忠行	授業のねらい 本演習では、卒業論文の執筆にむけて文献を精読し、各自の問題意識を深め最終的に自身の「問い」として抽出することを目的とする。開発、国際協力、支援などをテーマとする文献を精読し、これらの行為や現象を複眼的にみるための知見を養う。精読とあわせて各自の問題関心を深め、各自のテーマに沿った先行研究を収集にとりかかる。到達目標1) 文献に書かれている内容を筆者の意図に沿って理解し、レジュメにまとめることができる。2) 筆者の意見に対する自分の意見を述べることができる。3) ディスカッションの場で建設的な意見を述べるができる。	○			◎
150008084	比較文化演習21-II	2単位	3年	久保 忠行	本演習では、卒業論文の執筆にむけた文献精読、文献調査をもとにして「研究ノート」を執筆することが目的である。卒業論文執筆の準備として、1) 問いを立てる 2) 先行研究を収集する 3) 先行研究を批判的に検討する 4) 自分の考えを立論する 5) 研究ノートを書くことができるようになる。	○			◎
150008085	比較文化演習22-I	2単位	3年	安藤 恭子	このゼミでは、欧米文学・文化と関係の深い日本文学の作家、作品を選び、その関係性を明らかにすることで、それぞれの文化の特質を探ることを目的とします。例えば、留学経験や海外生活体験のある作家とその作品を取り上げ、歴史的・社会的背景を調査した上で、作品の分析をおこないます。また、日本文学の中で海外に広く翻訳されている作品を選び、その紹介のされ方などから、日本文学・文化に向けられている海外の視線について考察します。前期では、発表の方法(調査、作品分析、レジュメ制作、プレゼンテーション)について学び、4年生での卒業論文制作に向けて研究の基礎力を養います。その後、個人面談をおこないながら、発表の準備をすすめていきます。なお、取り上げる作家・作品は、面談をおこなったうえで最終決定します。受講するにあたって、自分が担当したい作家・作品があれば、積極的に希望を述べてください。			○	◎
150008086	比較文化演習22-II	2単位	3年	安藤 恭子	このゼミでは、欧米文学・文化と関係の深い日本文学の作家、作品を選び、その関係性を明らかにすることで、それぞれの文化の特質を探ることを目的とします。例えば、留学経験や海外生活体験のある作家とその作品を取り上げ、歴史的・社会的背景を調査した上で、作品の分析をおこないます。また、日本文学の中で海外に広く翻訳されている作品を選び、その紹介のされ方などから、日本文学・文化に向けられている海外の視線について考察します。後期では、研究の成果を発表し、参加者全員で質疑応答をおこないます。発表者は、聞く側の立場に配慮することを忘れず、情報を整理し、主張を明確に示すことを学びます。聞く側は、発表のポイントを抑さえ、発表者の利益になる建設的な質問をすることを学びます。最後に、発表、質疑応答を踏まえ、論文を制作します。4年生での卒業論文の基盤となるよう、論文の構成力・日本語の表現力の向上も目指します。			○	◎
150008087	比較文化演習23-I	2単位	3年	城殿 智行	比較映画論の基礎を学ぶ演習授業です。4年次に映画・映像を主題にした卒業論文を書くように準備します。この演習を選択する方は、同じ担当者による「表象文化論」をできるだけ履修して下さい。20世紀は「映像の世紀」と呼ばれましたが、インターネットが主流となった現在もなお、デジタル産業の主要コンテンツとして圧倒的な情報量で世界中に流通する映像メディアが私たちにたらす複雑な意味を正確に分析し、的確に理解する能力を身につけ、多様な映像文化に開かれた柔軟な感受性を養いながら、様々な映像を批判的に言語化する論理的な思考力を培うことが、この演習の目標です。ヨーロッパ各国を代表する映画をとりあげ、それらを相互に、また日本やアジア・アメリカの映画と比較することで、映像に表象された各国文化の差異について、基礎的な理解を育みます。その過程で、単に各国の文化が異なっているだけではなく、各文化圏の表象・思考様式そのものが異なる様子を、映像メディアを通じて学ぶことになるでしょう。前期は、映像の文法・映画の歴史・映像文化が担う社会的な役割などについて、講義形式で最低限の知識を身につけてもらいます。なお、履修人数と演習参加者の学習進捗状況に応じて、以下の授業内容とスケジュールを適宜調整することがあります。		○		◎

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	—

<ディプロマ・ポリシー(DP)>

DP1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

授業科目 コード	科目名	単位	配当 年次	担当者	授業のねらい・到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
						DP1	DP2	DP3	DP4
150008088	比較文化演習23-II	2単位	3年	城殿 智行	比較映画論の基礎を学ぶ演習授業です。映像メディアが私たちにもたらす複雑な意味を正確に腑分けし、的確に理解する能力を身につけ、多様な映像文化に開かれた柔軟な感受性を養いながら、様々な映像を批判的に言語化する論理的な思考力を培うことが、この演習の目標です。ヨーロッパ各国を代表する映画をとりあげ、それらを相互に、また日本やアジア・アメリカの映画と比較することで、映像に表象された各国文化の差異について、基礎的な理解を育みます。その過程で、単に各国の文化が異なっているだけでなく、各文化圏の表象・思考様式そのものが異なる様子を、映像メディアを通じて学ぶことになるでしょう。後期は、各自が自由に作品を選択し、口頭発表を分担してもらいます。演習参加者は、全員が2度の発表を義務づけられます。なお、履修人数と演習参加者の学習進捗状況に応じて、以下の授業内容とスケジュールを適宜調整することがあります。	○			◎